預言者伝（スィーラ）

第 14 巻

イフク（中傷）事件

ムスタリク族の遠征とアーイシャの潔白



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 14 巻

イフク（中傷）事件

ムスタリク族の遠征とアーイシャの潔白 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

لَّوْلَآ إِذْ سَمِعْتُمُوهُ ظَنَّ ٱلْمُؤْمِنُونَ وَٱلْمُؤْمِنَٰتُ بِأَنفُسِهِمْ خَيْرًا وَقَالُوا۟ هَٰذَآ إِفْكٌ مُّبِينٌ

「あなたがたはそれを聞いた時、信者の男も信者の女も、自分自身で何故好意ある考えをしなかったのか。そして、『これは明らかに中傷である。』と何故言わなかったのか。」

光章 24:12

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

七つの天の上からご自身の清らかなしもべの名を清められ、私たちに舌を慎むことを教えられたアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』第 14 巻は、ムスタリク族の遠征とイフク（中傷）事件を語ります。失われた首飾り、広まった中傷、アッラーの使徒 ﷺ の家に満ちた一か月の悲しみ、そしてアーイシャの潔白を明らかにした光章の節々です。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間も動物も描かれていません。描かれているのは、**広く静かな砂漠の谷**です。**夜明け**の時刻、**一本のアカシアの木**が砂の上にただ一本立っています。**淡いピンクと紫**の空にはまだ**明けの明星**が輝き、砂の上のかすかな**旅の足跡**が遠くの丘の方へ消えていきます。

静かな谷と消えていく足跡は、信者たちの母アーイシャ رضى الله عنها が野営地に戻ったとき、一行がすでに出発していたのを知り、その場に座って待った瞬間を思い起こさせます（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。ただ一本立つアカシアの木は、中傷が襲ったときのかの女の忍耐 — 「美しい忍耐」 — を象徴しています。夜明けの光と明けの明星は、アッラーが光章の節を下されたときに、ついに昇った真実を象徴しています。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

イフク（中傷）事件 — はじめに

1. ムスタリク族とアル＝ムライスィーウの泉 — 『サヒーフ・ブハーリー』2541

2. この出来事はいつ起きたのか — 『サヒーフ・ブハーリー』；スィーラ書

3. ジュワイリーヤ：一族を解放した花嫁 — 『スナン・アビー・ダーウード』3931

4. 泉のそばのジャーヒリーヤの呼びかけ — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3315

5. アッラーに正しさを認められたザイド・ブン・アルカム — 『サヒーフ・ブハーリー』4900

6. 失われた首飾り — 『サヒーフ・ブハーリー』4141

7. 砂漠に残されて — 『サヒーフ・ブハーリー』4141

8. 中傷が広まり始める — 光章 24:11

9. 病の中の一か月 — 『サヒーフ・ブハーリー』4141

10. 知らせがアーイシャに届く — 『サヒーフ・ブハーリー』4143

11. アッラーの使徒ﷺの協議 — 『サヒーフ・ブハーリー』7370

12. モスクでの緊張 — 『サヒーフ・ブハーリー』4141

13. 「美しい忍耐」 — ユースフ章 12:18

14. 啓示が下る：天からの潔白 — 光章 24:11

15. 良い推測と四人の証人 — 光章 24:12–13

16. 知らせを受け取る舌 — 光章 24:15–16

17. 中傷（カザフ）の刑罰 — 光章 24:4；『スナン・アビー・ダーウード』4474

18. アブー・バクルとミスタフ：赦し — 光章 24:22

19. ハッサーン・ブン・サービトとアーイシャ — 『サヒーフ・ブハーリー』4146

20. 二度目の首飾りとタヤンムムの節 — 『サヒーフ・ブハーリー』334

21. アーイシャの栄誉 — 『サヒーフ・ブハーリー』3768、4753

22. ソーシャルメディア時代の舌 — 『サヒーフ・ブハーリー』6478；部屋章 49:6

23. イフク事件の物語の典拠 — 図；表

24. 潔白の節：光章 24:11–26 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』2766

25. 光章：社会の名誉を守る砦 — 光章 24:27–31；『サヒーフ・ブハーリー』6241、6245

26. イフク事件の人物 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』4141

27. 試練の後のアーイシャ：ウンマの師 — 『サヒーフ・ブハーリー』3772、3775；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3883

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

28. イフク事件の年表 — 表

29. イフク事件についてのよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

イフク（中傷）事件

これまでの巻は、剣と矢による戦いを語ってきました。『預言者伝』第 14 巻は、別の種類の戦いを語ります — その武器は**舌**でした。それは砂漠で失われた一つの首飾りから始まり、審判の日まで読誦される**光章の十の節**で終わります。

この出来事は**イフク** —「大きな偽り」 — として知られています。**ムスタリク族**との戦いの後、偽信者たちは、**アーイシャ** رضى الله عنها、すなわちアッラーの使徒 ﷺ の妻に対して偽りの告発を広めました。一か月の間、アッラーの使徒 ﷺ の家は悲しみに包まれ、ついにアッラーご自身が天からアーイシャの潔白を下されたのです。

この物語は、アーイシャ自身によって、『サヒーフ・ブハーリー』の中で最も長いハディースの一つとして伝えられています（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。本書はその伝承を一歩ずつたどり、**ソーシャルメディア**の時代にこそ必要とされる教訓、すなわち中傷から舌をどう守るかで締めくくります。

ムスタリク族の遠征とイフク事件の年表

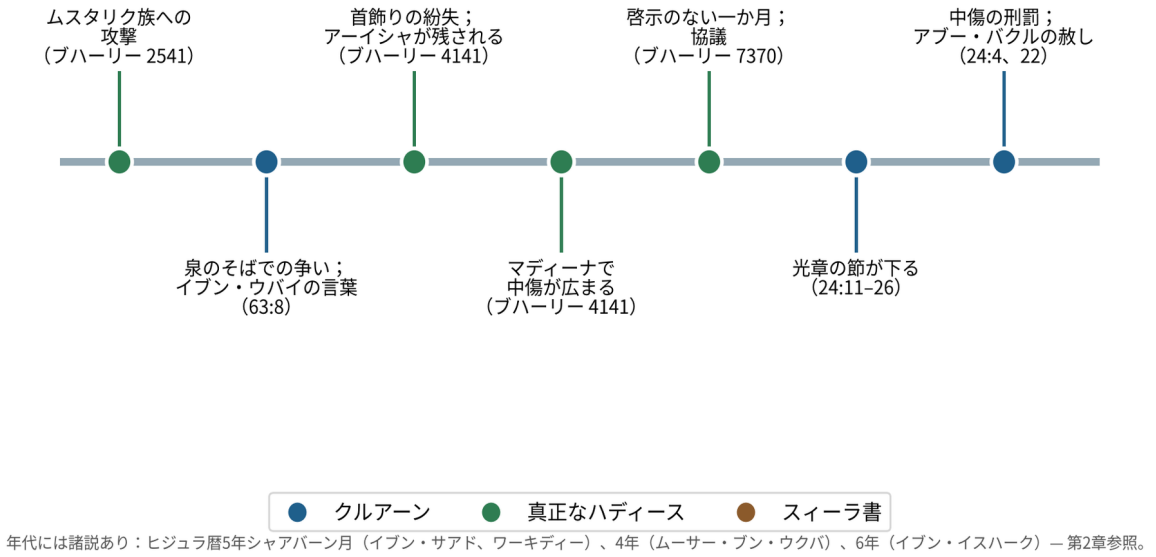


図 1：ムスタリク族の遠征とイフク事件の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

ムスタリク族とアル＝ムライスィーウの泉

ムスタリク族は、マッカとマディーナの間の沿岸地域に住んでいた**フザーア族**の一支族です。かれらの水場は**アル＝ムライスィーウ**と呼ばれ、そのためこの戦いは**ムライスィーウの遠征**とも呼ばれます。スィーラ書は、かれらの指導者**アル＝ハーリス・ブン・アビー・ディラール**がマディーナを攻撃するために軍勢を集めていたと述べています。

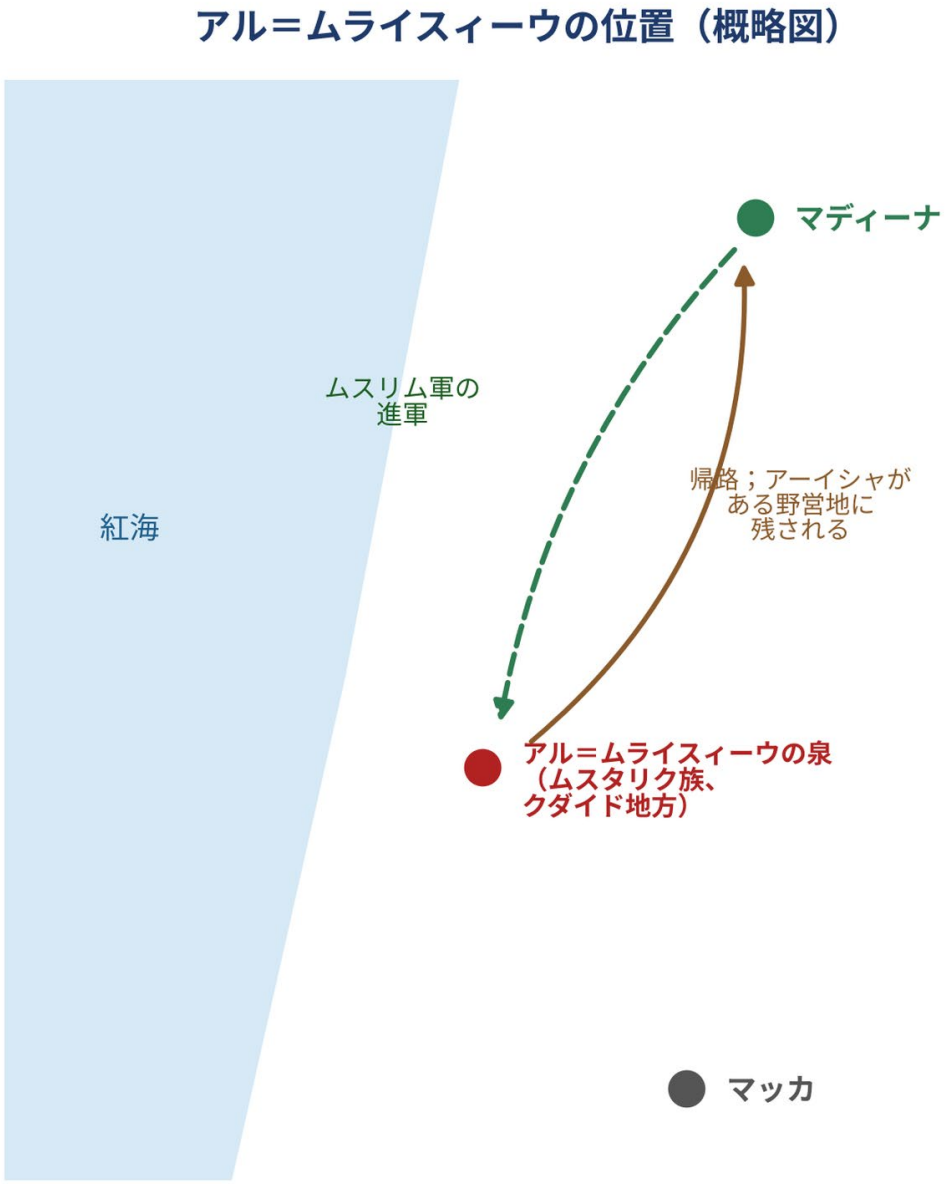


図 2：マッカとマディーナの間のアル＝ムライスィーウの位置（概略図）。

アッラーの使徒 ﷺ は、かれらが攻撃する前に先に動かれました。その軍に加わっていたアブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما はこう語っています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 2541 番

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ الْحَسَنِ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، أَخْبَرَنَا ابْنُ عَوْنٍ، قَالَ كَتَبْتُ إِلَى نَافِعٍ فَكَتَبَ إِلَيَّ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم أَغَارَ عَلَى بَنِي الْمُصْطَلِقِ وَهُمْ غَارُّونَ وَأَنْعَامُهُمْ تُسْقَى عَلَى الْمَاءِ، فَقَتَلَ مُقَاتِلَتَهُمْ، وَسَبَى ذَرَارِيَّهُمْ، وَأَصَابَ يَوْمَئِذٍ جُوَيْرِيَةَ. حَدَّثَنِي بِهِ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ عُمَرَ، وَكَانَ فِي ذَلِكَ الْجَيْشِ.

訳：

イブン・アウンは言った：私がナーフィウに手紙を書くと、かれはこう返事をくれた。**預言者 ﷺ は、ムスタリク族がまだ油断しており、家畜が水場で水を飲まされているところを襲われた。使徒はかれらのうち戦う者を殺し、子ども（と女性）を捕虜とされ、その日ジュワイリーヤを得られた。 アブドゥッラー・ブン・ウマルがそれを私に語ったのであり、かれはその軍の中にいた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アル＝ハサン ← アブドゥッラー・ブン・アル＝ムバーラク ← イブン・アウン ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』奴隷解放の書、アラブの奴隷を所有した者の章、ハディース第 2541 番；『サヒーフ・ムスリム』第 1730 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2541

学者たちはこのハディースを、ムスタリク族にはそれ以前に**すでに呼びかけ（ダアワ）が届いていた**ため、攻撃の前にあらためて呼びかける必要はなかったことの証拠としています。イマーム・アン＝ナワウィーとイブン・ハジャルは、イスラームへの呼びかけが義務となるのは、まだそれを聞いたことのない民に対してであると説明しています。

スィーラの注：短い戦い

スィーラ書は、戦闘は短時間で終わったと述べています。ムスタリク族は敗れ、その多くが財産とともに捕虜となりました。ムスリム軍の人数は真正なハディースには記されていません。スィーラ書は、道のりが近く、戦利品を期待したため、多くの偽信者もこの戦いに出陣したと述べています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；Wikipedia「Invasion of Banu Mustaliq」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Invasion_of_Banu_Mustaliq

教訓：偽信者たちの存在が、続いて起こる二つの試練の**背景**となりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この出来事はいつ起きたのか

本書は主題に沿って第 13 巻（クライザ族）の後に置かれています。しかし、ムスタリク族の遠征の実際の年代については、学者たちの間で**意見が分かれています**。イマーム・ブハーリー自身が、この戦いの章の冒頭にこう書いています：

「フザーア族のムスタリク族の遠征、すなわちムライスィーウの遠征の章。イブン・イスハークは言った：それは 6 年に起きた。ムーサー・ブン・ウクバは言った：4 年である。」（『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書）。

学者	挙げられている年代
ムーサー・ブン・ウクバ	ヒジュラ暦 4 年
イブン・サアドとアル＝ワーキディー	ヒジュラ暦 5 年シャアバーン月
イブン・イスハーク	ヒジュラ暦 6 年シャアバーン月
イブン・ハジャル（『ファトフ・アル＝バーリー』）	ハディースの手がかりに基づき 5 年を支持

重要な手がかりの一つは、イフクのハディースに**サアド・ブン・ムアーズ** رضى الله عنه が登場することです（第 12 章）。サアドはクライザ族の出来事の後、ヒジュラ暦 5 年ズル・カアダ月に亡くなりました（第 13 巻）。そこでイブン・ハジャルを含む多くの学者は、ムスタリク族の遠征は**ヒジュラ暦 5 年シャアバーン月**、すなわちハンダクの戦いの**前**に起きたと考えています。他の学者たちは別の説明を示しており、この議論は『ファトフ・アル＝バーリー』で詳しく扱われています。

教訓：ハディース学者たちは非常に**緻密で誠実**でした。かれらは意見の違いを隠さず、むしろそれを集め、証拠によって比較しました。私たちにとって大切なのはこの出来事の**教訓**であり、それは年代がどうであれ変わりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ジュワイリーヤ：一族を解放した花嫁

ムスタリク族の捕虜の中に、かれらの指導者の娘**ジュワイリーヤ・ビント・アル＝ハーリス**がいました。第1章のアブドゥッラー・ブン・ウマルのハディースは、使徒がその日「ジュワイリーヤを得られた」と述べています。アーイシャ رضى الله عنها は、その後に起きたことをこう語っています：

ジュワイリーヤはサービト・ブン・カイス・ブン・シャンマース رضى الله عنه の取り分となり、かの女は自らを買い戻す契約を結びました。かの女は身代金の助けを求めてアッラーの使徒 ﷺ のもとに来ました。使徒は仰せられました。「**それよりも良いものを望まないか。私があなたの身代金を払い、あなたと結婚しよう。**」 かの女は同意しました。アッラーの使徒 ﷺ がかの女と結婚されたと聞くと、人々は手元の捕虜を解放し、こう言いました。「**かれらはアッラーの使徒 ﷺ の姻戚である。**」 アーイシャは言いました。「**自分の民にとって、かの女ほど大きな祝福をもたらした女性を私は知らない。かの女のためにムスタリク族の百の家族が解放されたのだ。**」（『スナン・アビー・ダーウード』3931、アル＝アルバーニーはハサンと評価）。

イマーム・ムスリムも、かの女の元の名は**バッラ**であったが、アッラーの使徒 ﷺ がそれを**ジュワイリーヤ**に改められたと伝えています（『サヒーフ・ムスリム』2140）。かの女は**信者たちの母（ウンマハート・アル＝ムウミニーン）**の一人となり、多くのズィクル（唱念）で知られました。

結婚がもたらしたもの	説明
捕虜の解放	約百の家族が自由を得た
敵対の終わり	ムスタリク族は敵ではなく姻戚となった
ジュワイリーヤの栄誉	捕虜から信者たちの母へ
呼びかけの英知	かの女の部族はのちにイスラームに入った（スィーラ書）

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**敗北を慈悲に**変えられました。一つの賢明な決断が敵意を消し、一つの民全体を解放したのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジュワイリーヤのズィクル

ジュワイリーヤ رضى الله عنها は、その崇拝で知られていました。かの女は、アッラーの使徒 ﷺ が夜明けの礼拝の頃、礼拝の場にいるかの女のもとを出て行かれ、日が高くなった頃に戻られると、かの女がまだ同じ場所に座っていたと伝えています。使徒は仰せられました。「**私はあなたの後で四つの言葉を三度唱えた。もしそれを、あなたが朝から唱えてきたものと量り比べるならば、それの方が重いであろう。スブハーナッラーヒ・ワ・ビハムディヒ、アダダ・ハルキヒ、ワ・リダー・ナフスィヒ、ワ・ズィナタ・アルシヒ、ワ・ミダーダ・カリマーティヒ。**」（『サヒーフ・ムスリム』2726）。

その意味は：「**アッラーに讃えあれ、かれを称えて。その被造物の数ほど、かれご自身が満足されるほど、かれの玉座の重さほど、かれの御言葉のインクの量ほど。**」

このズィクルは、かつて戦争の捕虜であった一人の女性に教えられました — そしてかの女は今や、ウンマ全体のズィクルの師となったのです。

泉のそばのジャーヒリーヤの呼びかけ

勝利の後、ムスリム軍がアル＝ムライスィーウの泉のそばで休んでいたとき、小さな争いが起こり、大きな分裂を引き起こしかけました。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما はこう語っています：

ハディース—『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 3315 番

حَدَّثَنَا ابْنُ أَبِي عُمَرَ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ عَمْرِو بْنِ دِينَارٍ، سَمِعَ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ، يَقُولُ كُنَّا فِي غَزَاةٍ قَالَ سُفْيَانُ يَرَوْنَ أَنَّهَا غَزْوَةُ بَنِي الْمُصْطَلِقِ فَكَسَعَ رَجُلٌ مِنَ الْمُهَاجِرِينَ رَجُلاً مِنَ الأَنْصَارِ فَقَالَ الْمُهَاجِرِيُّ يَا لَلْمُهَاجِرِينَ وَقَالَ الأَنْصَارِيُّ يَا لَلأَنْصَارِ فَسَمِعَ ذَلِكَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ مَا بَالُ دَعْوَى الْجَاهِلِيَّةِ. قَالُوا رَجُلٌ مِنَ الْمُهَاجِرِينَ كَسَعَ رَجُلاً مِنَ الأَنْصَارِ فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم دَعُوهَا فَإِنَّهَا مُنْتِنَةٌ. فَسَمِعَ ذَلِكَ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أُبَيٍّ ابْنُ سَلُولَ فَقَالَ أَوَقَدْ فَعَلُوهَا وَاللَّهِ (لَئِنْ رَجَعْنَا إِلَى الْمَدِينَةِ لَيُخْرِجَنَّ الأَعَزُّ مِنْهَا الأَذَلَّ) فَقَالَ عُمَرُ يَا رَسُولَ اللَّهِ دَعْنِي أَضْرِبْ عُنُقَ هَذَا الْمُنَافِقِ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم دَعْهُ لاَ يَتَحَدَّثُ النَّاسُ أَنَّ مُحَمَّدًا يَقْتُلُ أَصْحَابَهُ. وَقَالَ غَيْرُ عَمْرٍو فَقَالَ لَهُ ابْنُهُ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ وَاللَّهِ لاَ تَنْقَلِبُ حَتَّى تُقِرَّ أَنَّكَ الذَّلِيلُ وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْعَزِيزُ. فَفَعَلَ. قَالَ أَبُو عِيسَى هَذَا حَدِيثٌ حَسَنٌ صَحِيحٌ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は言った：私たちはある遠征に出ていた—スフヤーンは言った：人々はそれを**ムスタリク族の遠征**だと考えている—すると**ムハージルーンの一人の男が、アンサールの一人の男の尻を打った。ムハージルの男は「ムハージルーンよ！」と叫び、アンサールの男は「アンサールよ！」と叫んだ。預言者 ﷺ はそれを聞かれて仰せられた。「なぜジャーヒリーヤの呼びかけがあるのか。」** 人々は言った。「ムハージルーンの一人の男がアンサールの一人の男を打ったのです。」アッラーの使徒 ﷺ は仰せられた。**「それをやめなさい。それは腐ったものである。」** アブドゥッラー・ブン・ウバイ・ブン・サルールはそれを聞いて言った。「かれ

らはそんなことをしたのか。アッラーにかけて、私たちがマディーナに戻れば、**力ある者が卑しい者をそこから追い出すであろう。**」ウマルは言った。「アッラーの使徒よ、この偽信者の首を打たせてください。」預言者 ﷺ は仰せられた。「**放っておきなさい。人々が、ムハンマドは自分の仲間を殺すと言わないように。**」アムル以外の者はこう伝えている：かれの息子**アブドゥッラー・ブン・アブドゥッラー**が父に言った。「アッラーにかけて、あなたが卑しい者であり、アッラーの使徒 ﷺ が力ある方であると認めるまで、あなたは帰れない。」そこでかれはそうした。アブー・イーサーは言った：このハディースはハサン・サヒーフである。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イブン・アビー・ウマル ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』クルアーン注釈の書、偽信者章の章、ハディース第 3315 番；元は『サヒーフ・ブハーリー』第 4905 番と『サヒーフ・ムスリム』第 2584 番。

等級： ハサン・サヒーフ — イマーム・ティルミズィーはハサン・サヒーフと評価；ダールッサラームはハサンと評価。この争いの話は『サヒーフ・ブハーリー』4905 にもある。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:3315

「それをやめなさい、それは腐っている！」

「**ムハージルーンよ！**」と「**アンサールよ！**」という呼びかけは普通に見えます — どちらもクルアーンの中の尊い名です。しかしそれが**派閥を作り敵対する**ための呼びかけになると、ジャーヒリーヤの呼びかけになります。アッラーの使徒 ﷺ はそれを**腐ったもの**と表現されました。

同じハディースはブハーリーによっても伝えられています（『サヒーフ・ブハーリー』4905）。ウマルへの使徒の答えにも注目してください。「**放っておきなさい。人々が、ムハンマドは自分の仲間を殺すと言わないように。**」 使徒は**呼びかけの評判**を守られたのです。外部の人々には、誰が偽信者で誰が信者かがわからないからです。

教訓：**アサビーヤ** — 派閥、民族、集団への偏った執着 — は、勝利の後でさえウンマを分裂させることがあります。イスラームは血筋や集団ではなく、信仰の上に私たちを一つにします。

アッラーに正しさを認められたザイド・ブン・アルカム

アブドゥッラー・ブン・ウバイの言葉 — **「力ある者が卑しい者を追い出すであろう」** — を、アンサールの一人の少年**ザイド・ブン・アルカム** رضى الله عنه が聞いていました。かれはそれを報告し、その後かれの身に起きたことは、**試される真実**についての教えとなりました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4900 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ رَجَاءٍ، حَدَّثَنَا إِسْرَائِيلُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ زَيْدِ بْنِ أَرْقَمَ، قَالَ كُنْتُ فِي غَزَاةٍ فَسَمِعْتُ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ أُبَيٍّ، يَقُولُ لاَ تُنْفِقُوا عَلَى مَنْ عِنْدَ رَسُولِ اللَّهِ حَتَّى يَنْفَضُّوا مِنْ حَوْلِهِ وَلَوْ رَجَعْنَا مِنْ عِنْدِهِ لَيُخْرِجَنَّ الأَعَزُّ مِنْهَا الأَذَلَّ فَذَكَرْتُ ذَلِكَ لِعَمِّي أَوْ لِعُمَرَ فَذَكَرَهُ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَدَعَانِي فَحَدَّثْتُهُ فَأَرْسَلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى عَبْدِ اللَّهِ بْنِ أُبَيٍّ وَأَصْحَابِهِ فَحَلَفُوا مَا قَالُوا فَكَذَّبَنِي رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَصَدَّقَهُ فَأَصَابَنِي هَمٌّ لَمْ يُصِبْنِي مِثْلُهُ قَطُّ، فَجَلَسْتُ فِي الْبَيْتِ فَقَالَ لِي عَمِّي مَا أَرَدْتَ إِلَى أَنْ كَذَّبَكَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَمَقَتَكَ. فَأَنْزَلَ اللَّهُ تَعَالَى {إِذَا جَاءَكَ الْمُنَافِقُونَ} فَبَعَثَ إِلَىَّ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَقَرَأَ فَقَالَ إِنَّ اللَّهَ قَدْ صَدَّقَكَ يَا زَيْدُ.

訳：

ザイド・ブン・アルカム رضى الله عنه は言った：**私はある遠征に出ていたとき、アブドゥッラー・ブン・ウバイがこう言うのを聞いた。「アッラーの使徒のもとにいる者たちに金を使ってはならない。そうすればかれらはかれのまわりから散って行くだろう。そしてもし私たちが（マディーナに）戻れば、力ある者が卑しい者をそこから追い出すであろう。」** 私はそれをおじに — あるいはウマルに — 話し、かれがそれを預言者 ﷺ に伝えた。使徒は私を呼ばれ、私はそれをお話しした。それからアッラーの使徒 ﷺ はアブドゥッラー・ブン・ウバイとその仲間を呼ばれたが、かれらはそんなことは言っていないと誓った。そこでアッラーの使徒 ﷺ は私を信じず、かれを信じられた。**私はそれまでに経験したことのない悲しみに襲われた。** 私は家に座っていた……するとアッラーは「偽信者たちがあなたのもとに来るとき……」を下された。預言者 ﷺ は私のもとに人を

遣わしてそれを読み聞かせ、こう仰せられた。「**まことにアッラーはあなたの正しさを認められた、ザイドよ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ラジャー ← イスラーイール ← アブー・イスハーク ← ザイド・ブン・アルカム رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン注釈の書、偽信者章、ハディース第 4900 番；第 4901〜4904 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 2772 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4900

アッラーは偽信者章で、イブン・ウバイの言葉を暴かれました。「**だが栄誉は、アッラーとその使徒と信者たちに属する。しかし偽信者たちは（それを）知らない。**」偽信者章 63:8（イブン・カスィール注釈）。

ザイドの気持ちを想像してください。真実を語った一人の少年が、大人たちがそれを否定して誓ったために信じてもらえなかったのです。かれは**自分を弁護するために嘘をつくこともなく**、仕返しもしませんでした。ただ悲しみの中で家に座っていたのです — するとアッラーご自身が啓示によってかれの正しさを認められました。

教訓：真実を語る者は**しばらくの間信じてもらえない**ことがあるかもしれませんが、アッラーは真実を無駄にはされません。ザイドの物語はアーイシャの物語への序章です。二人とも中傷され、二人とも耐え、二人ともクルアーンによって正しさを認められたのです。

真実を選んだ息子

第4章のジャービルのハディースは、心を打つ一つの細部で終わります。アブドゥッラー・ブン・ウバイ自身の息子で、同じく**アブドゥッラー** رضى الله عنه という名の者が父の前に立ちはだかり、こう言ったのです。「**アッラーにかけて、あなたが卑しい者であり、アッラーの使徒 ﷺ が力ある方であると認めるまで、あなたは帰れない。**」

スィーラの注：マディーナの門で

スィーラ書は、アブドゥッラーがマディーナの入り口に立って父を阻み、アッラーの使徒 ﷺ が許可されるまで父を中に入れなかったと述べています。イブン・イスハークはまた、アブドゥッラーがアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て、もし父を罰することを望まれるなら自分の手で行わせてほしいと願ったと伝えています。父を殺した他の人に対して、自分の心が復讐心を抑えられないことを恐れたからです。

アッラーの使徒 ﷺ は答えられました。「**いや、かれが私たちと共にいる限り、私たちはかれに優しくし、良く接しよう。**」この話はスィーラ書で有名ですが、マディーナの門での細部は『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』にはありません。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3315。https://sunnah.com/tirmidhi:3315

教訓：信仰は、一人の息子を、自分の父に対してさえ**真実**の側に立たせることができます ― しかし作法をもって、そして最終的な判断をアッラーの使徒 ﷺ に委ねて。そしてアッラーの使徒 ﷺ は、罰ではなく**優しさ**を選ばれたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

失われた首飾り

いよいよこの物語の核心に入ります。アーイシャ رضى الله عنها は自らそれを詳しく語っています（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。アッラーの使徒 ﷺ は旅に出ようとされるとき、妻たちの間で**くじを引かれ**ました。くじの当たった者が使徒に同行したのです。この遠征では、アーイシャのくじが当たりました。

そのときにはすでにヒジャーブの節が下っていたため、アーイシャは**ハウダジュ** — ラクダの背に載せる屋根付きの輿 — の中で旅をしていました。帰路、マディーナに近づいたところで、一行は夜に宿営しました。出発が告げられたとき、アーイシャは用を足すために少し離れた所へ出て行きました。

戻ってくると、かの女は胸に手をやり、**ザファールの玉の首飾り**（イエメン産のオニキス）が切れてなくなっているのに気づきました。**かの女はそれを探しに引き返し**、その捜索には時間がかかりました。

細部	その意味
妻たちの間のくじ	妻たちに対するアッラーの使徒 ﷺ の公平さ
ハウダジュ	預言者の妻の身体と名誉を守る
安価な首飾り	ザファールの玉であり、高価な宝石ではない
探しに引き返す	たとえ小さな物でも、物に対する誠実さ

教訓：歴史を変える出来事は、時に**ごく小さなこと**から始まります。一つの安価な首飾りが、光章の大きな法規定が下る原因となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

砂漠に残されて

アーイシャが首飾りを探している間に、かの女のハウダジュを運ぶ係の者たちが来て、それをラクダに載せました。かれらは**アーイシャが中にいると思った**のです。アーイシャはこう説明しています。「当時の女性は軽く、太ってはいなかった。わずかしか食べなかったからだ……そして私はそのときまだ若かった。」かれらはハウダジュの重さの違いに気づかなかったのです。

アーイシャが首飾りを見つけて戻ると、**野営地はもう空っぽ**でした。そこには誰もいませんでした。かの女がしたことは、その落ち着きと賢さを示しています。かの女は暗闇の中を一行の後を**追って走ることなく**、**その場に座り**、皆が自分のいないことに気づいて探しに戻ってくるだろうと考えたのです。そしてかの女は眠り込んでしまいました。

状況	アーイシャの行動
首飾りの紛失	探しに引き返す
空っぽの野営地	慌てず、暗闇の中をさまよわない
誰もいない	見つけてもらいやすいように元の場所に座る
待つ	眠り込むまでアッラーに身を委ねる

教訓：危機のときには、**安全な場所にとどまり**、助けを待つことが賢明な行動です。今日の安全の専門家も、道に迷った人に同じ助言をしています。「**立ち止まり、その場で待ちなさい**」。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サフワーン・ブン・アル＝ムアッタル

サフワーン・ブン・アル＝ムアッタル・アッ＝スラミー رضي الله عنه という一人の教友が、軍の後ろを歩いて取り残された物を確かめる役目を負っていました。かれは朝方その場所に着き、誰かが眠っているのを見ました。かれはアーイシャだとわかりました。ヒジャーブの節が下る前にかの女を見たことがあったからです。

アーイシャは言いました。「**私が目を覚ましたのは、かれが私に気づいて『インナー・リッラーヒ・ワ・インナー・イライヒ・ラージウーン（まことに私たちはアッラーのものであり、かれのもとに帰る）』と唱えるのを聞いたからだ。私はすぐにジルバーブで顔を覆った。アッラーにかけて、かれは私に一言も話しかけず、私はかれの口から、そのイスティルジャーウ以外の一言も聞かなかった。**」 サフワーンは自分のラクダをひざまずかせ、アーイシャがそれに乗ると、サフワーンは歩いてそのラクダを引き、昼の暑さの中で休んでいた軍に追いつきました（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

サフワーンの完璧な作法を見てください。かれは**言葉を交わさず**、一緒に乗ることもせず、皆の前で公然とアーイシャを一行のもとへ連れて行きました。ところが、本来なら誉れの証であるはずのことが、心に病のある者たちによって**ねじ曲げられ**たのです。

中傷が広まり始める

人々がアーイシャがサフワーンのラクダに乗って着いたのを見ると、心に病のある者たちが**ひそひそと噂し始めました。**アーイシャは言いました。「**そして（この出来事のために）滅びる者は滅びた。**」 中傷を広めることで最も大きな役割を担ったのは、偽信者たちの頭**アブドゥッラー・ブン・ウバイ・ブン・サルール**でした（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

クルアーンはかれらを小さな一団と呼んでいます。「**本当にあの虚偽を言い触らした者は、あなたがたの中の一団である**」光章 24:11（イブン・カスィール注釈）。

「**ウスバ**」（一団）という言葉は、中傷を広めた者が**少数**であったことを示しています。しかしその声は、他の人々がよく考えもせずに繰り返したために響き渡ったのです。残念なことに、何人かの善良な信者もそれに影響されました — その中には**ミスタフ・ブン・ウサーサ**、**ハッサーン・ブン・サービト**、**ハムナ・ビント・ジャフシュ**がいました。

集団	中傷における役割
アブドゥッラー・ブン・ウバイ	火付け役であり主な拡散者（「その大部分を引き受けた者」）
何人かの信者	影響されて繰り返した（ミスタフ、ハッサーン、ハムナ）
教友の大多数	沈黙するか、それを退けた
アーイシャ	何週間も何も知らなかった

教訓：中傷が始まるのに大勢は要りません — **一人の火付け役と大勢の繰り返す者**がいれば足りるのです。確かめもせずに知らせを繰り返す人は誰でも、その連鎖の一部となります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

陰口（ギーバ）、虚偽の中傷（ブフターン）、そしてフィトナ

アッラーの使徒 ﷺ は、舌による二つの罪の違いを説明されました。**「陰口とは何か知っているか。」** 人々は答えた。「アッラーとその使徒が最もよくご存じです。」使徒は仰せられた。**「あなたの兄弟について、かれの嫌がることを言うことである。」** 尋ねられた。「もし私の言うことが本当にかれにあるとしたら？」使徒は仰せられた。**「もしあなたの言うことがかれにあるなら、あなたはかれの陰口を言ったのであり、もしかれにないなら、あなたはかれに対してブフターン（大きな偽り）を犯したのである。」**（『サヒーフ・ムスリム』2589）。

イフクは最も重い部類に入ります。**ブフターン** — ありもしない悪事をでっち上げることです。クルアーン自身がそれを**「ブフターヌン・アズィーム」**（大きな虚偽、24:16）と呼んでいます。教訓：たとえ本当のことであっても、必要もないのに広めることは罪です。ましてやそれが偽りであればなおさらです。

病の中の一か月

マディーナに着くとすぐ、アーイシャは**一か月**病に伏しました。その間ずっと人々は中傷について語り合っていましたが、アーイシャは**何も知りません**でした。それでも、かの女は何か奇妙なものを感じていました：

「病の間に私を不安にさせたのは、病気のときにいつもアッラーの使徒 ﷺ から感じていた優しさを感じなかったことだった。使徒はただ入って来て挨拶をされ、それから『その人の具合はどうか』（カイファ・ティークム）と尋ねて、出て行かれるだけだった。」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

アッラーの使徒 ﷺ もまた傷ついた一人の人間でした。使徒は中傷を信じてはおられませんでしたが、**啓示はまだ下っていなかった**のであり、アッラーからの確証なしに罰することも無実とすることも望まれませんでした。その悲しみと戸惑いが、使徒の態度にはっきりと表れていたのです。

スィーラの注：なぜ啓示は遅れたのか

学者たちは、一か月にわたる啓示の遅れの背後にあるいくつかの英知を説明しています。その中には次のものがあります。信者たちのうち誰が良い推測をするかを**試す**ため。そして**証明する**ため — アッラーの使徒 ﷺ は思うままに啓示を下すことはできず、もしクルアーンが使徒の作り事であったなら、すぐに妻を弁護したはずです。そして、その忍耐によってアーイシャの**位階を高める**ためです。

参照：

イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』ハディース 4141 の注釈；イブン・カスィール注釈（光章 24:11）。https://tafsir.app/ibn-katheer/24/11

教訓：啓示の遅れそのものが**預言者であることの証拠**です。嘘つきなら、問題を解決するために節をでっち上げることができるのに、一か月も悲しみの中で待つことはしないでしょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

知らせがアーイシャに届く

アーイシャはついに、思いがけずその中傷を知ることになりました。ある夜、**ウンム・ミスタフ**と一緒に用を足す場所へ出かけたとき、その女性は自分の衣につまずいて言いました。「ミスタフなんか滅びてしまえ！」アーイシャはたしなめました。「なんとひどいことを！ あなたはバドルの戦いに参加した人をののしるのですか。」するとウンム・ミスタフは、人々が言っていることを語ったのです（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

ミスタフの母親自身が、中傷を広めた息子をののしったことに注目してください — そして被害者であるアーイシャは、ミスタフがバドルの戦士であるからと、なおもかれを**かばった**のです。アーイシャの母**ウンム・ルーマーン** رضى الله عنها も、同じ瞬間を自分の側から語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4143 番

حَدَّثَنَا مُوسَى بْنُ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا أَبُو عَوَانَةَ، عَنْ حُصَيْنٍ، عَنْ أَبِي وَائِلٍ، قَالَ حَدَّثَنِي مَسْرُوقُ بْنُ الأَجْدَعِ، قَالَ حَدَّثَتْنِي أُمُّ رُومَانَ ـ وَهْىَ أُمُّ عَائِشَةَ رضى الله عنها ـ قَالَتْ بَيْنَا أَنَا قَاعِدَةٌ أَنَا وَعَائِشَةُ إِذْ وَلَجَتِ امْرَأَةٌ مِنَ الأَنْصَارِ فَقَالَتْ فَعَلَ اللَّهُ بِفُلاَنٍ وَفَعَلَ. فَقَالَتْ أُمُّ رُومَانَ وَمَا ذَاكَ قَالَتِ ابْنِي فِيمَنْ حَدَّثَ الْحَدِيثَ. قَالَتْ وَمَا ذَاكَ قَالَتْ كَذَا وَكَذَا. قَالَتْ عَائِشَةُ سَمِعَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَتْ نَعَمْ. قَالَتْ وَأَبُو بَكْرٍ قَالَتْ نَعَمْ. فَخَرَّتْ مَغْشِيًّا عَلَيْهَا، فَمَا أَفَاقَتْ إِلاَّ وَعَلَيْهَا حُمَّى بِنَافِضٍ، فَطَرَحْتُ عَلَيْهَا ثِيَابَهَا فَغَطَّيْتُهَا. فَجَاءَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ مَا شَأْنُ هَذِهِ. قُلْتُ يَا رَسُولَ اللَّهِ أَخَذَتْهَا الْحُمَّى بِنَافِضٍ. قَالَ فَلَعَلَّ فِي حَدِيثٍ تُحُدِّثَ بِهِ. قَالَتْ نَعَمْ. فَقَعَدَتْ عَائِشَةُ فَقَالَتْ وَاللَّهِ لَئِنْ حَلَفْتُ لاَ تُصَدِّقُونِي، وَلَئِنْ قُلْتُ لاَ تَعْذِرُونِي، مَثَلِي وَمَثَلُكُمْ كَيَعْقُوبَ وَبَنِيهِ، وَاللَّهُ الْمُسْتَعَانُ عَلَى مَا تَصِفُونَ، قَالَتْ وَانْصَرَفَ وَلَمْ يَقُلْ شَيْئًا، فَأَنْزَلَ اللَّهُ عُذْرَهَا ـ قَالَتْ ـ بِحَمْدِ اللَّهِ لاَ بِحَمْدِ أَحَدٍ وَلاَ بِحَمْدِكَ.

訳：

アーイシャの母ウンム・ルーマーン رضى الله عنها は言った：**私がアーイシャと一緒に座っていたとき、アンサールの一人の女性が入って来て言った。「アッラーがあの人に報いを与えられますように！」私が「何があったのですか」と尋ねると、かの女は言った。「私の息子が、あの話を広めた者たちの中にいるのです。」** アーイシャは尋ねた。「アッラーの使徒 ﷺ はそれをお聞きになったのですか。」かの女は答えた。「はい。」「アブー・バクルも？」「はい。」**するとアーイシャは気を失って倒れ、意識が戻ると震えを伴う熱に襲われた。** 私はかの女に衣服をかけた。預言者 ﷺ が来られて「この人はどうしたのか」と尋ねられた。私は答えた。「アッラーの使徒よ、震えを伴う熱に襲われたのです。」使徒は仰せられた。「おそらく、人々が話しているあの話のためか。」私は答えた。「はい。」するとアーイシャは座り直してこう言った。**「アッラーにかけて、もし私が誓っても、あなた方は私を信じないでしょう。もし言い訳をしても、あなた方は受け入れないでしょう。私とあなた方のたとえは、ヤアクーブ عَلَيْهِ السَّلَامُ とその息子たちのようです。『あなたがたの言うことに対しては、アッラーにこそ助けを求めます。』」** 使徒は何も言わずに去って行かれた。それからアッラーはかの女の潔白を下された。アーイシャは言った。**「アッラーを讃えてのことであり、誰を讃えるのでもなく、あなたを讃えるのでもありません。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー・ブン・イスマーイール ← アブー・アワーナ ← フサイン・ブン・アブドゥッラフマーン ← アブー・ワーイル ← マスルーク・ブン・アル＝アジュダウ ← ウンム・ルーマーン رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、イフクのハディースの章、ハディース第 4143 番；第 3388 番、第 4691 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4143

アーイシャは、知らせを確かめるために両親の家に帰る許しを求めました。母はかの女をなだめようとしました。「娘よ、この事を軽く受け止めなさい。夫に愛される美しい女性で、ほかにも妻がいる場合、人々があれこれと噂しないことはめった

にないのです。」アーイシャは言いました。「**私はその夜、一晩中泣き続けた。涙は止まらず、眠ることもできなかった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

アッラーの使徒ﷺの協議

啓示がまだ下らない間、アッラーの使徒ﷺは**協議されました**—大きな事柄におけるいつもの習慣のとおりです。使徒は説教をして人々の意見を求め、また身近な人々を呼んで個別に尋ねられました：

ハディース—『サヒーフ・ブハーリー』第 7370 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَبِي زَكَرِيَّاءَ الْغَسَّانِيُّ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ عُرْوَةَ، عَنْ عَائِشَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم خَطَبَ النَّاسَ فَحَمِدَ اللَّهَ وَأَثْنَى عَلَيْهِ وَقَالَ مَا تُشِيرُونَ عَلَيَّ فِي قَوْمٍ يَسُبُّونَ أَهْلِي مَا عَلِمْتُ عَلَيْهِمْ مِنْ سُوءٍ قَطُّ. وَعَنْ عُرْوَةَ قَالَ لَمَّا أُخْبِرَتْ عَائِشَةُ بِالأَمْرِ قَالَتْ يَا رَسُولَ اللَّهِ أَتَأْذَنُ لِي أَنْ أَنْطَلِقَ إِلَى أَهْلِي. فَأَذِنَ لَهَا وَأَرْسَلَ مَعَهَا الْغُلاَمَ. وَقَالَ رَجُلٌ مِنَ الأَنْصَارِ سُبْحَانَكَ مَا يَكُونُ لَنَا أَنْ نَتَكَلَّمَ بِهَذَا، سُبْحَانَكَ هَذَا بُهْتَانٌ عَظِيمٌ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は、**アッラーの使徒ﷺが人々に説教をされたと伝えている。使徒はアッラーを讃え、称えてから仰せられた。「私の家族を非難する者たちについて、あなた方はどう考えるか。私はかれらについて何一つ悪いことを知らないのに。」**またウルワから：アーイシャはその事を知らされると言った。「アッラーの使徒よ、私の家族のもとに帰らせてください。」使徒はそれを許し、一人の少年をかの女に付き添わせられた。そしてアンサールの一人の男が言った。**「あなたに讃えあれ！ このことを口にするのは私たちにふさわしくない。あなたに讃えあれ、これは大きな虚偽である。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・ハルブ ← ヤフヤー・ブン・アビー・ザカリーヤー・アル＝ガッサーニー ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アッラーの書とスンナを堅持する書、「かれらの事は互いの協議による」というアッラーの御言葉の章、ハディース第 7370 番。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:7370

この伝承に出てくるアンサールの男は、**のちにクルアーンの中に下された**言葉を口にしました（光章 24:16）。スィーラ書は、このような態度をとった人の中に**アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー** رضى الله عنه とその妻がいたと述べています（第 15 章）。

尋ねられた人	答え（『サヒーフ・ブハーリー』4141）
ウサーマ・ブン・ザイド	「かの女はあなたの家族です。私たちは良いこと以外何も知りません。」
アリー・ブン・アビー・ターリブ	「アッラーはあなたを窮地に置かれてはいません……あの召使いの娘に尋ねてください。かの女は本当のことを言うでしょう。」
バリーラ（家の召使い）	「私はかの女に何も見たことがありません。ただ、パン生地を置いたまま眠ってしまい、それをヤギが食べてしまうような、若い娘だというだけです。」
ザイナブ・ビント・ジャフシュ	「私は自分の耳と目を守っています。アッラーにかけて、私は良いこと以外何も知りません。」

ザイナブ・ビント・ジャフシュ رضى الله عنها の証言は、とても心を打つものです。アーイシャは言いました。「かの女こそ（アッラーの使徒 ﷺ のもとで）私と張り合っていた人でした。しかしアッラーはその敬虔さによってかの女を守られたのです。」アーイシャを陥れる機会を最も持っていた共妻が、反対に**真実を語った**のです。教訓：敬虔さは、競争相手に対してさえ舌を守ります。

モスクでの緊張

その後、アッラーの使徒 ﷺ は説教壇に立って仰せられました。「**ムスリムたちよ、私の家族のことで私を傷つけた一人の男から、誰が私を弁護してくれるか。アッラーにかけて、私は自分の家族について良いこと以外何も知らない。またかれらは、私が良いこと以外何も知らない一人の男のことを口にしている。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

サアド・ブン・ムアーズ、アウス族の長が立ち上がって言いました。「アッラーの使徒よ、私があなたを弁護いたします。もしその者がアウス族なら、私たちがその首を打ちます。もし私たちの兄弟ハズラジュ族なら、ご命令ください。」すると**サアド・ブン・ウバーダ**、ハズラジュ族の長が — アーイシャはかれを善良な人であったが、そのときは**部族意識**に支配されてしまったと述べています — 反論しました。**ウサイド・ブン・フダイル**が言い返し、モスクの中で**アウス族とハズラジュ族の二つの部族は殺し合う寸前**になりました。そのときアッラーの使徒 ﷺ はまだ説教壇の上におられました。使徒はかれらが静まるまで、なだめ続けられました。

中傷がいかに危険かを見てください。それは一人の女性への告発から始まりましたが、イスラームが何十年もの敵対の後に和解させたアウス族とハズラジュ族の間に、**内戦**を引き起こしかけたのです。これこそが偽信者たちの狙いでした。イスラーム社会を内側から**分裂させる**ことです。

教訓：緊張した状況では、善良な人々の間でさえ、**部族意識**が容易に支配します。指導者は、アッラーの使徒 ﷺ がなだめ続けられたように、自ら落ち着き、人々を落ち着かせる必要があります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「美しい忍耐」

アーイシャは二晩と一日泣き続け、泣くことで心臓が張り裂けてしまうのではないかと思うほどでした。そのときアッラーの使徒 ﷺ が来られ、**かの女のそばに座られました** — 一か月ぶりのことでした。使徒は信仰告白を唱えてから仰せられました。**「アーイシャよ、あなたについてこれこれのことが私の耳に入った。もしあなたが潔白なら、アッラーがあなたの潔白を明らかにされるであろう。もしあなたが罪を犯したのなら、アッラーに赦しを請い、かれに悔い改めなさい。しもべが自分の罪を認めて悔い改めれば、アッラーはその悔悟を受け入れられるのだから。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

アーイシャの涙は止まりました。かの女は父に、それから母に、自分の代わりに答えてくれるよう頼みました — しかし二人とも言いました。「アッラーにかけて、アッラーの使徒 ﷺ に何と申し上げればよいのか、わからない。」そこで若い女性であったアーイシャは、信仰に満ちた言葉で自ら答えたのです：

「アッラーにかけて、もし私が自分は潔白だと言っても — アッラーは私が潔白であることをご存じです — あなた方は私を信じないでしょう。もし私が、アッラーが私のしていないことをご存じであることを認めれば、あなた方は私を信じるでしょう。アッラーにかけて、私と皆さんのたとえとしては、ユースフ عَلَيْهِ السَّلَامُ の父の言葉しか見つかりません：」

「わたしは、只耐え忍ぶのが最善である。あなたがたが述べることに就いては、アッラーこそ御助けを求められる方である」ユースフ章 12:18（イブン・カスィール注釈）。

アーイシャは、あまりの悲しみのために、そのとき預言者ヤアクーブ عَلَيْهِ السَّلَامُ の名前を思い出せず、「ユースフの父」と言ったのだと述べています。それからかの女は横になり、**アッラーが自分の潔白を明らかにされると確信していました。**ただし、

アッラーが自分についてクルアーンの節を下されるとは思っておらず ― アッラーの使徒 ﷺ が何かの夢を見られることを望んでいただけでした。

教訓：**美しい忍耐**（サブルン・ジャミール）とは、人々に不平を言わず、事をアッラーに委ねる忍耐です。誰も自分を信じてくれないときの、不当に扱われた者の武器なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

信者の事柄のすばらしさ

アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。**「信者の事柄はなんとすばらしいことか。そのすべての事柄がかれにとって善いのである。そしてそれは信者以外の誰にも当てはまらない。もし良いことがあれば感謝し、それがかれにとって善い。もし災難に遭えば忍耐し、それがかれにとって善いのである。」**（『サヒーフ・ムスリム』2999）。

アーイシャはイフクの試練の間ずっと、このハディースを生きました。中傷されたときには忍耐し、潔白が下されたときには**ただアッラーだけに感謝しました**。これこそがアッラーの御言葉の秘密です。「それをあなたがたにとって悪いことだと思ってはならない。いや、それはあなたがたにとって善いことなのである」（24:11）。

啓示が下る：天からの潔白

アッラーの使徒 ﷺ がまだ座った場所から立ち上がらず、家の中の誰もまだ出て行かないうちに、**啓示が下りました**。アーイシャはこう描いています。使徒は啓示を受けるときのいつもの重い状態に包まれ、寒い日であったのに**真珠のような汗の玉**が流れ落ちたのです。

啓示が終わると、使徒は微笑まれ、最初に口にされた言葉はこうでした。「**アーイシャよ、アッラーがあなたの潔白を明らかにされた。**」 母は言いました。「立って使徒のところへ行き（感謝し）なさい。」アーイシャは答えました。「**アッラーにかけて、私は使徒のところへ立って行きはしません。私はアッラー以外の誰も讃えません。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

アッラーは光章の十の節（24:11–20）を下されました。その始まりは：「**それをあなたがたにとって悪いことだと思ってはならない。いや、それはあなたがたにとって善いことなのである**」光章 24:11（イブン・カスィール注釈）。

これほど辛い中傷が、どうして「**あなたがたにとって善いこと**」になり得るのでしょうか。イブン・カスィールは説明します。それはアーイシャとその家族に**大きな報奨**をもたらし、審判の日まで読誦されるクルアーンの中に**永遠の潔白**を記し、そして時の終わりまでウンマの名誉を守る**法規定**をもたらしたからです。

節	主な内容
24:11	中傷を広めたのは小さな一団；それはあなたがたにとって善いこと
24:12–13	良い推測；四人の証人を求める
24:14–15	舌で受け取る；小さなことだと思う
24:16–18	「このことを口にするのは私たちにふさわしくない」；繰り返すなとの警告
24:19–20	醜聞を広めることを好む者への警告

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

良い推測と四人の証人

潔白の後の最初の節は、信者たちの知らせの受け取り方を戒めています。「**あなたがたがそれを聞いた時、なぜ信者の男も女も、自分たち自身について良く思わなかったのか**」光章 24:12（イブン・カスィール注釈）。

「**自分たち自身について**」という表現に注目してください。クルアーンは、信仰の兄弟は**私たち自身**のようなものだと教えています。他の人に自分のことをどう思ってほしいか — そのように私たちも他の人のことを思うべきなのです。

スィーラの注：アブー・アイユーブとウンム・アイユーブ

イブン・イスハークは、ウンム・アイユーブが夫の**アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー** رضى الله عنه にこう尋ねたと伝えています。「人々がアーイシャについて言っていることを聞きましたか。」かれは答えました。「ああ、そしてそれは嘘だ。ウンム・アイユーブよ、あなた自身ならそんなことをするか。」かの女は答えました。「いいえ、アッラーにかけて。」アブー・アイユーブは言いました。「**それならアーイシャは、アッラーにかけて、あなたよりもすぐれている。**」

これは 24:12 の節の生きた手本です — 他の人を自分自身で量り、良く推測するのです。この話はスィーラ書と注釈書で有名ですが、『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』にはありません。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・カスィール注釈（光章 24:12）。https://tafsir.app/ibn-katheer/24/12

次の節（24:13）は問いかけます。なぜかれらは**四人の証人**を連れて来なかったのか。姦通の告発は名誉に対する最も重い告発であり、だからこそイスラームは最も厳しい証拠の条件を定めたのです。その証拠がなければ、告発した者自身が、アッラーのもとで**嘘つきとみなされます**。

教訓：**良い推測**は中傷を止める第一歩であり、**証拠**は第二歩です。証拠なしに告発する者こそが罪を負うのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

知らせを受け取る舌

クルアーンは、中傷がどのように広まるかを、きわめて的確な描写で示しています。**「見なさい。あなたがたは舌先でそれを受け止め、またあなたがたの口は、自分の知らないことを言った。そしてアッラーの御目には重大なことを、軽く考えていた。」**光章 24:15（イブン・カスィール注釈）。

注目してください。その知らせは耳ではなく**舌で受け取られた**のです。まるで**理性を通らずに**舌から舌へと移って行ったかのようです。アーイシャ自身はこの節を**「ティリクーナフ」**という読み方で読み、その意味は**「あなたがたが偽りを言う」**だと言いました（『サヒーフ・ブハーリー』4144）。

「あなたがたはそれを聞いた時、何故こう言わなかったのか。『これはわたしたちの口にすべきことではない。アッラーに讃えあれ。これは大変な中傷である。』」光章 24:16（イブン・カスィール注釈）。

過ち	24:15 の節による
舌で受け取る	考えずに繰り返す
知識なしに話す	真偽のわからないことを広める
小さなことだと思う	「人の言ったことを繰り返しただけだ」
アッラーのもとでは大きなこと	非常に重い罪

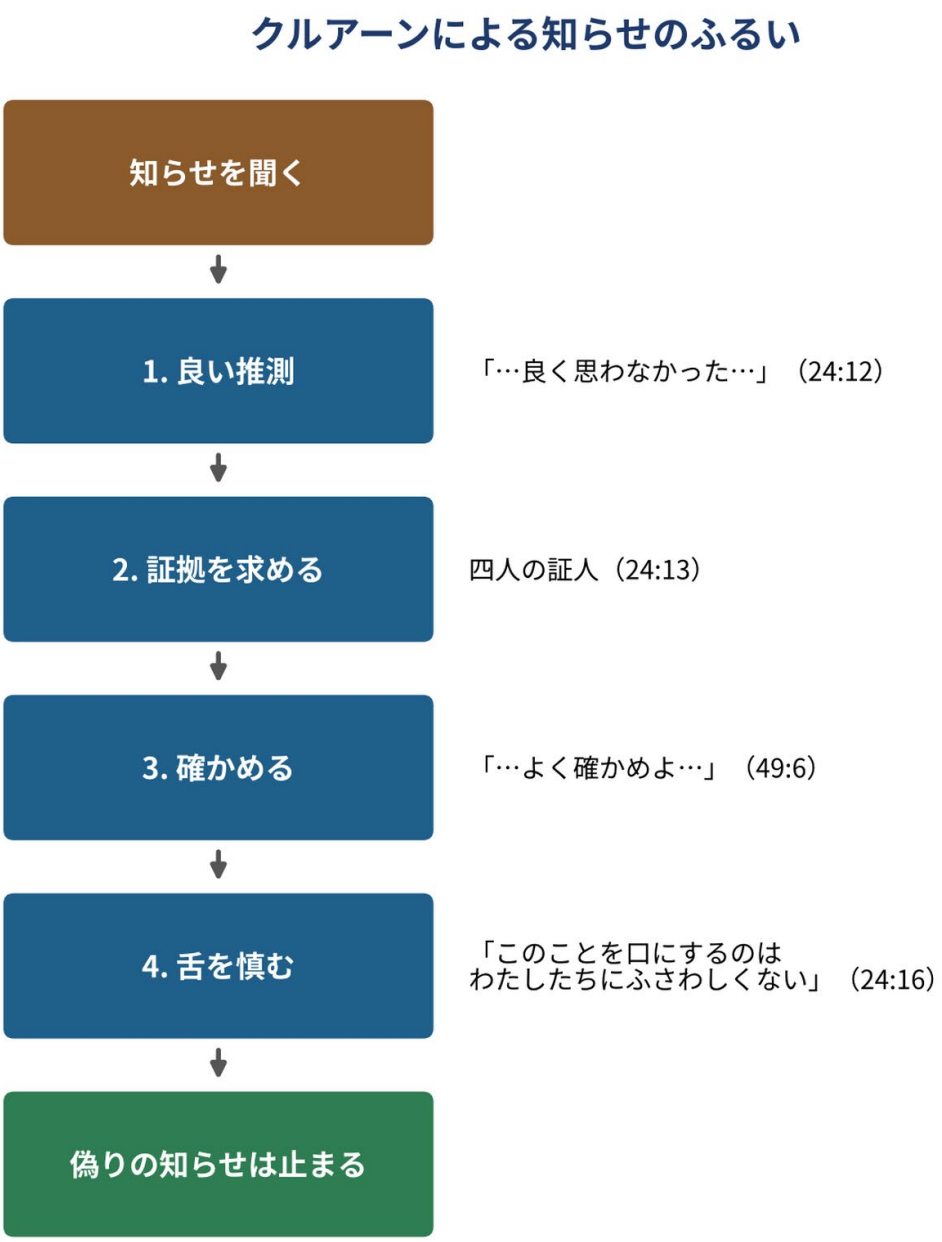


図 3：クルアーンによる知らせのふるい。

教訓：証拠もなく兄弟の悪い話を聞いたとき、クルアーンが教える態度は**自分のところでそれを止める**ことです — たとえ一人の友人にでも、それを広めないことです。

中傷（カザフ）の刑罰

イフク事件はまた、**カザフの刑罰** — 名誉を守っている女性（または男性）を十分な証拠なしに姦通で告発した者への刑罰 — が執行されるきっかけともなりました。アッラーは光章の初めで仰せられます：

「貞節な女を非難して 4 名の証人を上げられない者には、80 回の鞭打ちを加えなさい。決してこんな者の証言を受け入れてはならない。かれらは主の掟に背く者たちである。」光章 24:4（イブン・カスィール注釈）。

アーイシャ رضى الله عنها は言いました。**「私の潔白が下ったとき、預言者 ﷺ は説教壇に上り、そのことを述べてクルアーンを読誦された。説教壇から降りると、二人の男と一人の女に刑罰（ハッド）を科すよう命じられた。」**（『スナン・アビー・ダーウード』4474、アル＝アルバーニーはハサンと評価）。スィーラ書はかれらの名を挙げています。**ミスタフ・ブン・ウサーサ、ハッサーン・ブン・サービト、ハムナ・ビント・ジャフシュ**です。

スィーラの注：イブン・ウバイはどうなったのか

学者たちは、アブドゥッラー・ブン・ウバイにも刑罰が科されたかどうかについて意見が分かれています。一部の伝承はかれが鞭打たれたと述べ、別の伝承はそうではないとしています。イブン・カスィールやその他の学者は、かれに約束された**大きな懲罰**（24:11）は来世でのものであると述べています。かれこそが中傷において**「その大部分を引き受けた者」**だったからです。

参照：

イブン・カスィール注釈（光章 24:4、11）；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』。https://tafsir.app/ibn-katheer/24/4

カザフの刑罰	その英知
八十回の鞭打ち	根拠のない告発から人々の名誉を守る
証言が退けられる	告発者は社会の信頼を失う

カザフの刑罰	その英知
放埒な者とみなされる	証拠なしの告発は大罪
悔悟は受け入れられる（24:5）	アッラーへの帰り道は開かれたまま

教訓：イスラームは人間の**名誉**を、生命や財産と同じように重く見ています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・バクルとミスタフ：赦し

ミスタフ・ブン・ウサーサはアブー・バクル رضى الله عنه の貧しい親族で、アブー・バクルはいつもかれの**生活を支えて**いました。そのミスタフがアブー・バクル自身の娘に対する中傷を広めるのに加わったとき、アブー・バクルは誓いました。「アッラーにかけて、もう二度とミスタフに何も与えない。」そこでアッラーは次の節を下されました（『サヒーフ・ブハーリー』4141）：

「かれらを許し、大目に見てやれ。あなたがたは、アッラーがあなたがたを御赦し下さることを望まないのか。本当にアッラーは寛容にして慈悲深い方であられる」 光章 24:22（イブン・カスィール注釈）。

アブー・バクルはすぐに答えました。**「いや、アッラーにかけて、私はアッラーが私を赦してくださることを望みます。」** そしてかれは以前のようにミスタフへの援助を再開し、こう言いました。「アッラーにかけて、私はもう決してこれをやめない。」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

想像してみてください。自分の娘が最も醜い告発で中傷された父親、しかもそれが自分の援助していた親族によってだったのです。それでもアッラーが**「あなたがたは、アッラーがあなたがたを赦されることを望まないのか」**と問われたとき、かれはためらいませんでした。だからこそアブー・バクルは**アッ＝スィッディーク（真実の人）**と呼ばれるのです。

教訓	24:22 の節から
過ちのために善行をやめない	過ちを犯した親族でも援助を続ける
許し、大目に見る	「かれらを許し、大目に見てやれ」
ふさわしい報い	人を赦す者は、アッラーに赦される
ミスタフはバドルの戦士	過ちが善行のすべてを消し去るわけではない

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

教訓：**自分を傷つけた人を赦すこと**は、アッラーの赦しへの道です。学者たちはこの節を、クルアーンの中で最も希望を与える節の一つとしてしばしば挙げています。

ハッサーン・ブン・サービトとアーイシャ

ハッサーン・ブン・サービト رضى الله عنه は、詩によってイスラームを擁護したアッラーの使徒ﷺの詩人でした（第 13 巻）。残念ながら、かれはイフクの中傷に影響された者の一人でした。その後、アーイシャはかれに対してどのような態度をとったのでしょうか。マスルークはこう語っています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4146 番

حَدَّثَنِي بِشْرُ بْنُ خَالِدٍ، أَخْبَرَنَا مُحَمَّدُ بْنُ جَعْفَرٍ، عَنْ شُعْبَةَ، عَنْ سُلَيْمَانَ، عَنْ أَبِي الضُّحَى، عَنْ مَسْرُوقٍ، قَالَ دَخَلْنَا عَلَى عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ وَعِنْدَهَا حَسَّانُ بْنُ ثَابِتٍ يُنْشِدُهَا شِعْرًا، يُشَبِّبُ بِأَبْيَاتٍ لَهُ وَقَالَ: حَصَانٌ رَزَانٌ مَا تُزَنُّ بِرِيبَةٍ وَتُصْبِحُ غَرْثَى مِنْ لُحُومِ الْغَوَافِلِ فَقَالَتْ لَهُ عَائِشَةُ لَكِنَّكَ لَسْتَ كَذَلِكَ. قَالَ مَسْرُوقٌ فَقُلْتُ لَهَا لِمَ تَأْذَنِينَ لَهُ أَنْ يَدْخُلَ عَلَيْكِ. وَقَدْ قَالَ اللَّهُ تَعَالَى {وَالَّذِي تَوَلَّى كِبْرَهُ مِنْهُمْ لَهُ عَذَابٌ عَظِيمٌ}. فَقَالَتْ وَأَىُّ عَذَابٍ أَشَدُّ مِنَ الْعَمَى. قَالَتْ لَهُ إِنَّهُ كَانَ يُنَافِحُ ـ أَوْ يُهَاجِي ـ عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم.

訳：

マスルークは言った：**私たちがアーイシャ** رضى الله عنها **のもとを訪ねると、そのそばにハッサーン・ブン・サービトがいて、かの女のために詩を吟じ、その詩句でかの女を称えていた。「慎み深く落ち着いた女性、いかなる疑いもかけられず、朝には油断した女たちの肉に飢えている（陰口を言わない）。」** アーイシャはかれに言った。**「でもあなたはそうではありませんでした。」** マスルークは言った：私はかの女に尋ねた。「アッラーが『その大部分を引き受けた者には、大きな懲罰がある』と仰せられたのに、なぜかれがあなたのもとに入るのを許すのですか。」かの女は答えた。「盲目になること以上に重い懲罰があるでしょうか。」そしてこう言った。**「まことにかれは、かつて（詩によって）アッラーの使徒ﷺを擁護していたのです。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ビシュル・ブン・ハーリド ← ムハンマド・ブン・ジャアファル（グンダル） ← シュウバ ← スライマーン・アル＝アアマシュ ← アブー・アッ＝ドゥハー ← マスルーク ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、イフクのハディースの章、ハディース第 4146 番；第 4755〜4756 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 2488 番。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4146

ハッサーンはアーイシャを、油断した女たちの**肉を食べない** — すなわち陰口を言わない — 女性として称えました。アーイシャは穏やかに答えました。「**でもあなたはそうではありませんでした**」 — かれの以前の過ちを思い出させたのです。それでもかの女はかれを**受け入れ**、かばいました。アッラーの使徒 ﷺ を擁護したハッサーンの功績のためです。

別の伝承でウルワは言いました。「私がアーイシャの前でハッサーンをののしろうとすると、かの女は言った。『**かれをののしってはいけません。かれはかつてアッラーの使徒 ﷺ を擁護していたのですから。**』」（『サヒーフ・ブハーリー』4145）。

教訓：アーイシャは中傷の被害者でしたが、**恨みを抱きません**でした。かの女はハッサーンを公平に評価しました — その過ちを認めつつ、その功績を忘れなかったのです。これこそ心の清らかな人の品性です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

二度目の首飾りとタヤンムムの節

アーイシャの首飾りは、今度は別の旅において、再びアッラーの法規定が下る原因となりました。学者たちは、この出来事が同じ旅で起きたのか別の旅で起きたのかについて意見が分かれていますが、どちらも**アブー・バクルの家族の祝福**を示しています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 334 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، قَالَ أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ الْقَاسِمِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ، زَوْجِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَتْ خَرَجْنَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي بَعْضِ أَسْفَارِهِ، حَتَّى إِذَا كُنَّا بِالْبَيْدَاءِ ـ أَوْ بِذَاتِ الْجَيْشِ ـ انْقَطَعَ عِقْدٌ لِي، فَأَقَامَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى الْتِمَاسِهِ، وَأَقَامَ النَّاسُ مَعَهُ، وَلَيْسُوا عَلَى مَاءٍ، فَأَتَى النَّاسُ إِلَى أَبِي بَكْرٍ الصِّدِّيقِ فَقَالُوا أَلاَ تَرَى مَا صَنَعَتْ عَائِشَةُ أَقَامَتْ بِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَالنَّاسِ، وَلَيْسُوا عَلَى مَاءٍ، وَلَيْسَ مَعَهُمْ مَاءٌ. فَجَاءَ أَبُو بَكْرٍ وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَاضِعٌ رَأْسَهُ عَلَى فَخِذِي قَدْ نَامَ فَقَالَ حَبَسْتِ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَالنَّاسَ، وَلَيْسُوا عَلَى مَاءٍ، وَلَيْسَ مَعَهُمْ مَاءٌ. فَقَالَتْ عَائِشَةُ فَعَاتَبَنِي أَبُو بَكْرٍ، وَقَالَ مَا شَاءَ اللَّهُ أَنْ يَقُولَ، وَجَعَلَ يَطْعُنُنِي بِيَدِهِ فِي خَاصِرَتِي، فَلاَ يَمْنَعُنِي مِنَ التَّحَرُّكِ إِلاَّ مَكَانُ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى فَخِذِي، فَقَامَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حِينَ أَصْبَحَ عَلَى غَيْرِ مَاءٍ، فَأَنْزَلَ اللَّهُ آيَةَ التَّيَمُّمِ فَتَيَمَّمُوا. فَقَالَ أُسَيْدُ بْنُ الْحُضَيْرِ مَا هِيَ بِأَوَّلِ بَرَكَتِكُمْ يَا آلَ أَبِي بَكْرٍ. قَالَتْ فَبَعَثْنَا الْبَعِيرَ الَّذِي كُنْتُ عَلَيْهِ، فَأَصَبْنَا الْعِقْدَ تَحْتَهُ.

訳：

預言者 رضى الله عنها の妻アーイシャ ﷺ は言った：**私たちはアッラーの使徒 ﷺ のある旅にお供して出かけた。アル＝バイダー — あるいはザート・アル＝ジャイシュ — に着いたとき、私の首飾りが切れてしまった。アッラーの使徒 ﷺ はそれを探すために止まられ、人々も使徒と共に止まったが、そこは水場ではなかった。** 人々はアブー・バクル・アッ＝スィッディークのもとに来て言った。「アーイシャのしたことを見ないのですか

.....」アブー・バクルは、アッラーの使徒 ﷺ が私の太ももに頭を載せて眠っておられるところに来て、私を叱り、手で私の脇腹をつついた。アッラーの使徒 ﷺ の頭が私の太ももの上にあったから、私は身動きしなかったのである。アッラーの使徒 ﷺ は水のないまま朝を迎えられた。**するとアッラーはタヤンムムの節を下され**、人々はタヤンムムを行った。ウサイド・ブン・フダイルは言った。「**アブー・バクルの家族よ、これはあなた方の最初の祝福ではない。**」 アーイシャは言った：私たちが私の乗っていたラクダを立たせると、その下に首飾りがあった。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← マーリク・ブン・アナス ← アブドゥッラフマーン・ブン・アル＝カースィム ← 父 アル＝カースィム・ブン・ムハンマド ← アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』タヤンムムの書、ハディース第 334 番；第 4607 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 367 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:334

下された節は食卓章（および女性章 4:43）のタヤンムムの節です。「**水を見つけられない場合は、清い土で（タヤンムムして）**」食卓章 5:6（イブン・カスィール注釈）。

ウサイド・ブン・フダイルの言葉 — 「**アブー・バクルの家族よ、これはあなた方の最初の祝福ではない**」 — は、教友たちがアーイシャの出来事をどう見ていたかを示しています。個人的な苦労から、**ウンマ全体のための容易さ**が生まれたのです。今日に至るまで、病気のムスリムや水を見つけられないムスリムは、アーイシャの首飾りのおかげでタヤンムムを行っているのです。

教訓：アッラーは**困難を容易さへの道**とされます。「それをあなたがたにとって悪いことだと思ってはならない。いや、それはあなたがたにとって善いことなのである」（24:11）。

アーイシャの栄誉

これほど重い中傷の後、アッラーとその使徒 ﷺ は、さまざまな形で**アーイシャの栄誉**を明らかにされました。その一つが、ジブリールご自身からの挨拶です：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3768 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ يُونُسَ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ أَبُو سَلَمَةَ إِنَّ عَائِشَةَ رضى الله عنها ـ قَالَتْ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمًا يَا عَائِشُ، هَذَا جِبْرِيلُ يُقْرِئُكِ السَّلاَمَ. فَقُلْتُ وَعَلَيْهِ السَّلاَمُ وَرَحْمَةُ اللَّهِ وَبَرَكَاتُهُ، تَرَى مَا لاَ أَرَى. تُرِيدُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った：**ある日、アッラーの使徒 ﷺ は仰せられた。「アーイシュよ、こちらはジブリールで、あなたに挨拶（サラーム）を送っている。」** 私は答えた。「**ワ・アライヒッ・サラーム・ワ・ラフマトゥッラーヒ・ワ・バラカートゥフ（かれの上にも平安とアッラーの慈悲と祝福がありますように）。」** あなたは私の見ないものを見ておられます ― アッラーの使徒 ﷺ のことである。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アル＝ライス・ブン・サアド ← ユーヌス・ブン・ヤズィード ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アブー・サラマ ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者 ﷺ の教友たちの美徳の書、アーイシャの美徳の章、ハディース第 3768 番；『サヒーフ・ムスリム』第 2447 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3768

アッラーの使徒 ﷺ はまた仰せられました。**「他の女性たちに対するアーイシャのすぐれた点は、他の食べ物に対するサリードのすぐれた点のようである」**（『サヒーフ・ブハーリー』3770）。サリードとは、パンを肉のスープに浸した料理で、当時のアラブ人に最も好まれたものです。

「私は、忘れ去られたものであればよかった」

しかしアーイシャ自身はいつも**謙虚**でした。何十年も後、かの女が死を目前にしていたとき、イブン・アッバースが見舞いに訪れました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4753 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا يَحْيَى، عَنْ عُمَرَ بْنِ سَعِيدِ بْنِ أَبِي حُسَيْنٍ، قَالَ حَدَّثَنِي ابْنُ أَبِي مُلَيْكَةَ، قَالَ اسْتَأْذَنَ ابْنُ عَبَّاسٍ قَبْلَ مَوْتِهَا عَلَى عَائِشَةَ، وَهْىَ مَغْلُوبَةٌ قَالَتْ أَخْشَى أَنْ يُثْنِيَ عَلَىَّ. فَقِيلَ ابْنُ عَمِّ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَمِنْ وُجُوهِ الْمُسْلِمِينَ. قَالَتِ ائْذَنُوا لَهُ. فَقَالَ كَيْفَ تَجِدِينَكِ قَالَتْ بِخَيْرٍ إِنِ اتَّقَيْتُ. قَالَ فَأَنْتِ بِخَيْرٍ ـ إِنْ شَاءَ اللَّهُ ـ زَوْجَةُ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَلَمْ يَنْكِحْ بِكْرًا غَيْرَكِ، وَنَزَلَ عُذْرُكِ مِنَ السَّمَاءِ. وَدَخَلَ ابْنُ الزُّبَيْرِ خِلاَفَهُ فَقَالَتْ دَخَلَ ابْنُ عَبَّاسٍ فَأَثْنَى عَلَىَّ وَوَدِدْتُ أَنِّي كُنْتُ نِسْيًا مَنْسِيًّا.

訳：

イブン・アビー・ムライカは言った：**イブン・アッバースは、アーイシャが亡くなる前、病が重かったときに、見舞いのための許しを求めた。アーイシャは言った。「かれが私を褒めるのではないかと心配です。」** かの女にこう言われた。「かれはアッラーの使徒 ﷺ のいとこで、ムスリムの重鎮の一人です。」かの女は言った。「では入れてあげなさい。」イブン・アッバースは尋ねた。「ご気分はいかがですか。」かの女は答えた。「良いです、もし私が敬虔であるならば。」イブン・アッバースは言った。**「あなたは善い状態にあります、イン・シャー・アッラー — アッラーの使徒 ﷺ の妻であり、使徒はあなた以外に処女と結婚されたことはなく、**そしてあなたの潔白は天から下されたのです。」 その後イブン・アッ＝ズバイルが入ってくると、アーイシャは言った。「イブン・アッバースが入って来て私を褒めました。でも**私は、すっかり忘れ去られたものであればよかったのに。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝ムサンナー ← ヤフヤー・ブン・サイード・アル＝カッターン ← ウマル・ブン・サイード・ブン・アビー・フサイン ← イブン・アビー・ムライカ ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン注釈の書、光章、ハディース第 4753 番；第 3771 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4753

イブン・アッバースはアーイシャの最大の栄誉を挙げました。「**あなたの潔白は天から下されたのです**」。しかしアーイシャの答えは、かの女の敬虔さを示しています。称賛が誠実さを損なうことを恐れて、褒められるよりも**忘れ去られること**を望んだのです。

アーイシャの栄誉	典拠
天からの潔白	光章 24:11–26
ジブリールからの挨拶	『サヒーフ・ブハーリー』3768
他の食べ物に対するサリードのように	『サヒーフ・ブハーリー』3770
タヤンムムの節が下った原因	『サヒーフ・ブハーリー』334
ハディースを最も多く伝えた人の一人	2,000 以上のハディース（ハディース学の書）

ソーシャルメディア時代の舌

イフクの中傷は、一つの小さな町で口から口へと広まりました。今日、中傷はWhatsApp、Facebook、TikTokを通じて、**数分のうちに何百万人もの人々**に広まり得ます。光章の教えは、かつてないほど重要になっています。アッラーの使徒 ﷺ は、一つの言葉がいかに重いかを思い起こさせてくださいました：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第6478番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُنِيرٍ، سَمِعَ أَبَا النَّضْرِ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ - يَعْنِي ابْنَ دِينَارٍ - عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي صَالِحٍ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ إِنَّ الْعَبْدَ لَيَتَكَلَّمُ بِالْكَلِمَةِ مِنْ رِضْوَانِ اللَّهِ لاَ يُلْقِي لَهَا بَالاً، يَرْفَعُ اللَّهُ بِهَا دَرَجَاتٍ، وَإِنَّ الْعَبْدَ لَيَتَكَلَّمُ بِالْكَلِمَةِ مِنْ سَخَطِ اللَّهِ لاَ يُلْقِي لَهَا بَالاً يَهْوِي بِهَا فِي جَهَنَّمَ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう仰せられたと伝えている。「**まことに、しもべはアッラーのお気に召す一つの言葉を、気にも留めずに口にすることがある。するとアッラーはそれによってかれの位階をいくつも高められる。また、しもべはアッラーのお怒りを招く一つの言葉を、気にも留めずに口にすることがある。**するとかれはそれによって地獄に落ちてしまうのである。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムニール ← アブー・アン＝ナドル ← アブドゥッラフマーン・ブン・アブドゥッラー・ブン・ディーナール ← 父 アブドゥッラー・ブン・ディーナール ← アブー・サーリフ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』心を和らげるものの書、舌を守る章、ハディース第6478番；『サヒーフ・ムスリム』第2988番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:6478

アッラーは、あらゆる知らせを確かめるよう命じておられます。**「信仰する者よ、もし邪な者が情報をもたらしたならば、慎重に確かめよ」**部屋章 49:6（イブン・カスィール注釈）。

科学の注：偽りの知らせはより速く広まる

2018 年に学術誌『**サイエンス**』に発表された大規模な研究は、300 万人以上が共有したツイッター上の約 **12 万 6,000 件の情報の連鎖**を分析しました。MIT の研究者たちは、**偽りの知らせは本当の知らせよりも遠くへ、速く、広く広まる**ことを発見しました。偽りの知らせは**再共有される可能性が 70％高く**、本当の知らせが 1,500 人に届くには約 **6 倍の時間**がかかりました（Vosoughi, Roy & Aral, "The spread of true and false news online", Science 359, 2018）。

その研究はまた、偽りの知らせには**驚きと感情**の要素が多く含まれ、それが人々に考えずに共有させることも見いだしました — まさにクルアーンの描写のとおりです。**「あなたがたはそれを自分の舌で受け取り……それを些細なことと思っていた」**（24:15）。クルアーンは 1,400 年前にその治療法を示していました。**良い推測、証拠を求めること、確かめること、そして沈黙**です。

共有する前に	自分に問う
それは本当か	確かな証拠があるか（24:13；49:6）
それは良いことか	誰かの恥をさらすことにならないか（24:19）
それは必要か	「このことを口にするのは私たちにふさわしくない」（24:16）
もしそれが自分のことだったら	「自分たち自身について」良く推測する（24:12）

アッラーの使徒 ﷺ はまた仰せられました。**「聞いたことをすべて話すことは、人が嘘つきであるのに十分である」**（『サヒーフ・ムスリム』序論 5）。教訓：「シェア」ボタンは**現代の舌**であり、私たちはそれについて問われることになるのです。

イフク事件の物語の典拠

イフク事件の物語は、等級の異なる三種類の典拠を通じて私たちに伝わっています。本書は、読者が**何が確かか**と**何が有名か**を知ることができるよう、三つを区別しています：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イフク事件の物語の典拠

クルアーン（6）

- 「力ある者が卑しい者を追い出す」（63:8）
- 偽りの話はあなたがたにとって善いこと（24:11）
- 良い推測と四人の証人（24:12–13）
- 舌と口（24:15–16）
- 中傷の刑罰（24:4）
- ミスタフを赦す（24:22）

真正なハディース（9）

- ムスタリク族への攻撃
- 泉のそばのジャーヒリーヤの呼びかけ
- ザイド・ブン・アルカムの正しさ
- 首飾りの紛失；サフワーン；中傷の拡大
- ウンム・ルーマーン；協議；バリーラ
- ハッサーンとアーイシャ
- タヤンムムの節
- ジブリールの挨拶；イブン・アッバースの称賛
- 中傷の刑罰（アブー・ダーウード — ハサン）

スィーラ書（3）

- 遠征の年代
- マディーナの門でのイブン・ウバイの息子
- アブー・アイユーブとウンム・アイユーブ

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：本書におけるイフク事件の物語の典拠の位置づけ。

物語	典拠と等級
イブン・ウバイの言葉；アーイシャの潔白；カザフ；ミスタフへの赦し	クルアーン（偽信者章 63:8；光章 24:4–26）— 確実

物語	典拠と等級
攻撃；首飾り；サフワーン；中傷；協議；啓示	『サヒーフ・ブハーリー』2541、4141、4143、7370 — サヒーフ
ザイド・ブン・アルカム；ハッサーン；タヤンムム；アーイシャの栄誉	『サヒーフ・ブハーリー』4900、4146、334、3768、3770、4753 — サヒーフ
ジャーヒリーヤの呼びかけ；イブン・ウバイの息子	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3315 — ハサン・サヒーフ；『サヒーフ・ブハーリー』4905
ジュワイリーヤ；三人への刑罰	『スナン・アビー・ダーウード』3931、4474 — ハサン
年代；マディーナの門でのイブン・ウバイの息子；アブー・アイユーブ	スィーラ書（イブン・イスハーク、アル＝ワーキディー）— 有名、伝承経路はさまざま

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

潔白の節：光章 24:11–26

イフクのハディースの中で、アーイシャ رضى الله عنها は、アッラーが「本当にあの虚偽を言い触らした者は……」で始まる十の節を下されたと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。そして注釈学者たちは、光章の第 11 節から第 26 節までを、この出来事についての一続きとして論じています。前の章ではその一部を説明しました。下の表は十六の節すべてをまとめ、読者が全体を見渡せるようにしたものです。

節	簡単な意味	本書での箇所
24:11	虚偽を広めたのは小さな一団にすぎない；この出来事は悪いことではなく、むしろあなたがたにとって善いこと	第 8 章、第 14 章
24:12	信者たちは良く推測すべきであった	第 15 章
24:13	なぜ四人の証人を連れて来なかったのか	第 15 章
24:14	もしアッラーの恩恵がなかったなら、あなたがたは大きな懲罰に遭っていた	本章
24:15	知らせを舌で受け取り、それを些細なことと思う	第 16 章
24:16	「このことを口にするのは私たちにふさわしくない」	第 16 章
24:17	アッラーは、二度とこのようなことを繰り返さないよう諭される	本章
24:18	アッラーはご自分の節を明らかにされる	本章
24:19	信者の間に醜い行いが広まることを好む者には痛ましい懲罰	第 22 章、本章
24:20	懲罰を防ぐアッラーの慈悲	本章
24:21	悪魔の足跡に従うな；アッラーの恩恵なしには誰も清くなれない	本章
24:22	許し、心を広く持つ	第 18 章
24:23	身持ちの正しい、何も知らない信者の女性を告発する者は、現世と来世で呪われる	本章、質問 9〜10

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

節	簡単な意味	本書での箇所
24:24	舌も手も足も証言する	本章
24:25	アッラーは公正に報いを全うされる	本章
24:26	善い者は善い者に；かれらは告発から潔白である	質問 6

悪魔の足跡

第 21 節は警告します。「あなたがた信仰する者よ、悪魔の足跡に従ってはならない」（光章 24:21）。中傷が大きな嘘から始まることはまれです。それは小さな一歩から始まります。ささやき、「本当なの？」と尋ね、それから他の人に繰り返すのです。一歩一歩は取るに足らないように見えますが、最後には大きな罪へと導きます。同じ節は、アッラーの恩恵なしには誰一人清くなれないことも思い起こさせます。ですから、つまずいた人よりも自分の方が清いと思う余地はないのです。

身体が証人となる

第 23 節から第 25 節は、最も重い警告でこの一続きを締めくくります。名誉を守り、その醜い行いが心をよぎることさえない信者の女性を告発する者は、現世でも来世でも呪われます。審判の日には、告発したその舌そのものが、持ち主に不利な証人となるのです（光章 24:23–25）。

ハディース：人を滅ぼす七つの罪

アブー・フライラ رضي الله عنه は、預言者 ﷺ がこう仰せられたと伝えています。「人を滅ぼす七つのことを避けなさい。」教友たちは尋ねました。「アッラーの使徒よ、それは何ですか。」使徒は、多神崇拝、魔術、アッラーが禁じた命を殺すこと、利息を食らうこと、孤児の財産を食らうこと、戦場から逃げること、そして「身持ちの正しい、何も知らない信者の女性たちを（姦通で）告発すること」を挙げられました。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』2766；『サヒーフ・ムスリム』89 にも。

教訓

これら十六の節は、一人の尊い女性の名を清めるだけのものではありません。それはウンマ全体のための舌の法を示しています。良く推測すること、証拠を求めること、悪い知らせを自分のところで止めること、恥がさらされるのを好まないこと、赦すこと、そして自分の舌が自分に不利な証人となることを常に忘れないことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

光章：社会の名誉を守る砦

イフクの節は、名誉を守るための法規定に満ちた光章のちょうど中ほどにあります。この出来事の後、クルアーンは中傷を広めた者を罰するだけでなく、中傷が起こりにくくなるよう垣根を築きました。原則は簡単です。泥棒が入る前に戸を閉めることです。

節	規定	築かれた砦
24:2	姦通の刑罰	醜い行いそのものを厳しく防ぐ
24:4–5	カザフの刑罰（第 17 章）	証拠のない告発は罰せられる
24:27–29	他人の家に入る前に許しを求め、挨拶する	家庭のプライバシーを守る
24:30	男性は視線を下げる	中傷への最初の扉を閉じる
24:31	女性は視線を下げ、身体を覆う	自らの名誉を守る
24:32	結婚の奨励	自然な欲求を正しく満たす
24:58–59	自宅の中でも、身体を覆わない三つの時間には許しを求める	家族の中の作法

ハディース：許しを求めるのは視線のため

サフル・ブン・サアド رضي الله عنه は、ある男が預言者 ﷺ の家の戸の穴から中をのぞいたと伝えています。使徒は仰せられました。「もしあなたがのぞいているとわかっていたら、これであなたの目を突いていたであろう。許しを求めることは、まさに視線のために定められたのである。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』6241。

ハディース：三度許しを求める

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه はウマル رضى الله عنه の家に来て三度挨拶をしましたが、返事がなかったので帰りました。ウマルがなぜ帰ったのかと尋ねると、アブー・ムーサーは、アッラーの使徒 ﷺ がこう仰せられたと言いました。「あなた方の誰かが三度許しを求めて許されなければ、帰りなさい。」ウマルは証拠を求め、別の教友がそのハディースを確認しました。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』6245；『サヒーフ・ムスリム』2153 にも。

ウマルの態度に注目してください。かれは、偉大な教友からの知らせであっても、確かめられるまで受け入れませんでした。これは光章と同じ精神です — あらゆる知らせは確かめられるべきであり、あらゆる家は尊重されるべきなのです。

教訓

イスラームは中傷が起きるのを待ってから動くのではありません。初めから作法を築くのです。許しを求めること、視線を下げること、身体を覆うこと、そして結婚を容易にすることです。これらの作法を守る社会は、イフクのような中傷からよりよく守られます。

イフク事件の人物

イフクのハディースには、それぞれ異なる役割を持つ多くの人物が登場します。下の表は、かれらをその部族と典拠とともにまとめたものです。主な人物の部族を理解することは大切です。モスクでの緊張（第 12 章）はアウス族とハズラジュ族の間で起きたからです。

人物	部族／関係	役割	典拠
アーイシャ・ビント・アビー・バクル رضى الله عنها	クライシュ族（タイム家）；その夫は預言者 ﷺ	中傷の被害者；クルアーンによって潔白とされた	ブハーリー 4141；光章 24:11–26
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク رضى الله عنه	クライシュ族（タイム家）；アーイシャの父	耐え忍び、のちにミスタフを赦した	ブハーリー 4141；光章 24:22
ウンム・ルーマーン رضى الله عنها	アーイシャの母	娘をなだめた	ブハーリー 4143
サフワーン・ブン・アル＝ムアッタル رضى الله عنه	スライム族（アッ＝ザクワーニー）	軍の後方の見回り役；アーイシャを連れ帰った；のちにアッラーの道で殉教	ブハーリー 4141
アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه	クライシュ族（ハーシム家）	相談を受け、家の召使いに尋ねるよう勧めた	ブハーリー 4141
ウサーマ・ブン・ザイド رضى الله عنهما	ザイド・ブン・ハーリサの息子	相談を受け、「私たちは良いこと以外何も知りません」	ブハーリー 4141
バリーラ رضى الله عنها	家の召使い	アーイシャの善良さを証言した	ブハーリー 4141（その名についてはイブン・ハジャルが論じている）

人物	部族／関係	役割	典拠
ザイナブ・ビント・ジャフシュ رضى الله عنها	信者たちの母；アサド・ブン・フザイマ族；そのいとこは預言者 ﷺ	共妻に対してさえ舌を慎んだ	ブハーリー 4141
ハムナ・ビント・ジャフシュ	ザイナブの姉妹	姉妹をかばおうとして影響された	ブハーリー 4141
サアド・ブン・ムアーズ رضى الله عنه	アウス族の長（アブドゥルアシュハル家）	モスクで弁護を申し出た	ブハーリー 4141（イブン・イスハークはウサイドとする；第 2 章参照）
サアド・ブン・ウバーダ رضى الله عنه	ハズラジュ族の長（サーイダ家）	部族意識に流されて反論した	ブハーリー 4141
ウサイド・ブン・フダイル رضى الله عنه	アウス族（アブドゥルアシュハル家）；サアド・ブン・ムアーズのいとこ	サアド・ブン・ウバーダに言い返した	ブハーリー 4141
ウンム・ミスタフ	クライシュ族；その母はアブー・バクルのおば	思いがけずアーイシャに知らせた；息子をののしった	ブハーリー 4141
ミスタフ・ブン・ウサーサ	クライシュ族（アブドゥ・マナーフの子ムッタリブ家）；バドルの戦士	影響された；刑罰を受けた；アブー・バクルに赦された	ブハーリー 4141；アブー・ダーウード 4474
ハッサーン・ブン・サービト رضى الله عنه	ハズラジュ族（ナッジャール家）；詩人として仕えたのはアッラーの使徒 ﷺ	影響された；のちにアーイシャを称えた	ブハーリー 4141、4146

人物	部族／関係	役割	典拠
アブドゥッラー・ブン・ウバイ・ブン・サルール	ハズラジュ族（アウフ家）；偽信者たちの頭	火付け役であり主な拡散者	ブハーリー 4141；光章 24:11

スィーラの注：サアド・ブン・ムアーズか、ウサイド・ブン・フダイルか

ブハーリーの伝承では、最初に立ち上がって弁護を申し出たのはサアド・ブン・ムアーズです。一方イブン・イスハークの伝承では、それはウサイド・ブン・フダイルです。この違いは遠征の年代をめぐる議論（第 2 章）と密接に関係しています。サアド・ブン・ムアーズはクライザ族の出来事の後に亡くなったからです。イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』でこれを論じ、ブハーリーの伝承を支持しています。二人ともアウス族です。

参照：イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』（ハディース第 4141 番）；イブン・ヒシャーム『預言者伝』。

サフワーン：「私は一人の女性の衣も開いたことがない」

イフクのハディースの終わりで、アーイシャは、告発されたその男サフワーンがこう言ったと述べています。「スブハーナッラー！ 私の魂をその御手に握られる方にかけて、私は一人の女性の衣も開いたことがない。」アーイシャは言いました。「その後、かれはアッラーの道で殺された」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。こうして、かつて名を汚されたサフワーンは、殉教者としてその生涯を閉じたのです。

教訓

この出来事には、善良な人々、つまずいた人々、そして一人の偽信者が関わっています。クルアーンとハディースは、部族や地位によってではなく、その行いによっ

て一人ひとりを評価します。バドルの戦士でさえ過ちを犯すことがあり、悔悟の門は常に開かれているのです。

試練の後のアーイシャ：ウンマの師

イフクの中傷は、アーイシャ رضى الله عنها の光を消しはしませんでした。むしろその試練の後、かの女は半世紀近くにわたって、ウンマの師として生き続けたのです。偉大な教友たちがかの女に教えを求め、タービウーン（教友の次の世代）はかの女から学びました。

ハディース：かの女の掛け布の中で下った啓示

ウンム・サラマ رضى الله عنها は、使徒の妻たちからの一つの願いをアッラーの使徒 ﷺ に伝えました。使徒は仰せられました。「アーイシャのことで私を苦しめてはならない。アッラーにかけて、あなた方のうち、かの女以外の女性の掛け布の中にいるときに、啓示が私に下ったことはないのだ。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』3775。

ハディース：現世でも来世でも預言者の妻

アンマール・ブン・ヤースィル رضى الله عنهما はアーイシャについてこう言いました。「まことにかの女は、現世でも来世でも、あなた方の預言者の妻である。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』3772。

ハディース：教友たちはアーイシャに尋ねた

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه は言いました。「私たちアッラーの使徒 ﷺ の教友たちが、あるハディースについてわからないことがあってアーイシャに尋ねると、必ずかの女のもとにそれについての知識を見いだしたものだ。」

等級：アッ＝ティルミズィーによればハサン・サヒーフ・ガリーブ— 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3883。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

分野	アーイシャの貢献	典拠
ハディース	ハディースを最も多く伝えた人の一人（第21章）	ハディース学の書
フィクフ（法学）	法規定、特に家庭と女性の事柄における教友たちの拠り所	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3883
クルアーン注釈	節の意味を説明した。「ティリクーナフ」の読み方を含む（第16章）	『サヒーフ・ブハーリー』4144
歴史と詩	ウルワ・ブン・アッ＝ズバイルは、クルアーン、遺産分割、合法と禁止、詩、アラブの歴史についてのかの女の知識を称えた	伝記の書（アッ＝ザハビー『スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー』）
逝去	ヒジュラ暦57年または58年のラマダーン月、マディーナにて；アル＝バキーウに埋葬	伝記の書；年代には諸説あり

教訓

最も苦い試練が、必ずしも終わりになるわけではありません。アーイシャはアッラーによって潔白とされ、その生涯を教えることに捧げました。今日中傷を受けている人は誰でも、ここから手本を得ることができます。自分の名の弁護をアッラーに委ね、善い行いを続けることです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イフク事件の年表

ムスタリク族の遠征の年代には諸説あります（第2章）。イブン・サアドによればヒジュラ暦5年シャアバーン月で、イブン・ハジャルもこれを支持しています。あるいはイブン・イスハークによれば6年シャアバーン月です。下の出来事の順序は真正なハディースに基づいています。ハディースに記されていない期間は、スィーラ書の伝承として示しています。

番号	出来事	典拠
1	アッラーの使徒ﷺがムスタリク族に向けて出発；くじによりアーイシャが同行	ブハーリー 4141
2	アル＝ムライスィーウでの攻撃；ムスタリク族の敗北	ブハーリー 2541
3	ジュワイリーヤが解放され結婚；その一族の捕虜が解放される	アブー・ダーウード 3931
4	泉のそばでの争い；ジャーヒリーヤの呼びかけ	ブハーリー 4905；ティルミズィー 3315
5	イブン・ウバイの言葉；ザイド・ブン・アルカムの報告；偽信者章が下る	ブハーリー 4900
6	帰路；マディーナの近くで夜営；首飾りの紛失	ブハーリー 4141
7	朝、サフワーンがアーイシャを見つけ、一行のもとへ連れて行く	ブハーリー 4141
8	マディーナに到着；中傷が広まり始める；アーイシャが一か月病に伏す	ブハーリー 4141
9	アーイシャがウンム・ミスタフから中傷を知る	ブハーリー 4141
10	アーイシャが両親の家に帰る；それを許されたのはアッラーの使徒ﷺ	ブハーリー 4141
11	アッラーの使徒ﷺがアリーとウサーマに相談；バリーラとザイナブに尋ねる	ブハーリー 4141
12	モスクでの説教；アウス族とハズラジュ族の間の緊張	ブハーリー 4141

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

番号	出来事	典拠
13	啓示のない一か月；アーイシャが二晩と一日泣き続ける	ブハーリー 4141
14	アーイシャの潔白を明らかにする啓示が下る（光章 24:11–26）	ブハーリー 4141
15	カザフの刑罰が執行される	アブー・ダーウード 4474
16	アブー・バクルがミスタフへの援助を再開	ブハーリー 4141；光章 24:22

教訓

年表は、中傷が一か月以上続き、その間ずっとアッラーの使徒 ﷺ が証拠なしには行動されなかったことを示しています。使徒は尋ね、協議し、アッラーの裁定を待たれました。真実を求める忍耐は、急いで裁くことよりもすぐれているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イフク事件についてのよくある質問

1. なぜ啓示は一か月も遅れたのですか。

ハディースはその理由をはっきりとは述べていません。イブン・アル＝カイイムが『ザード・アル＝マアード』で述べているように、学者たちはいくつかの英知を挙げています。信者たちを試すこと、偽信者が誰かを明らかにすること、アッラーの使徒 ﷺ が私欲から語るのではないことを示すこと、そして潔白が天から完全な形で下るためです。これは学者たちの見解であり、聖典の明文ではありません。

2. アッラーの使徒 ﷺ はアーイシャを疑われたのですか。

使徒は説教壇の上で仰せられました。「アッラーにかけて、私は自分の家族について良いこと以外何も知らない」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。使徒は、啓示されたこと以外の見えない事柄を知らない一人の人間であったため、証拠なしには何も決められず、アッラーの裁定を待たれたのです。

3. なぜアーイシャは「私はアッラー以外の誰も讃えません」と言ったのですか。

啓示が下ったとき、母はかの女に、立ってアッラーの使徒 ﷺ に感謝するよう言いました。アーイシャは、自分の潔白を下されたアッラー以外の誰も讃えないと言いました（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。これは敬意が足りないしるしではなく、タウヒード（唯一神信仰）に対する誠実さです。弁護はただアッラーからのみ来たのです。

4. 刑罰を受けたのは誰ですか。

『スナン・アビー・ダーウード』は、節が下った後に二人の男と一人の女が刑罰を受けたと述べています（『スナン・アビー・ダーウード』4474）。スィーラの伝承はかれらの名をミスタフ、ハッサーン、ハムナとしています。イブン・ウバイも鞭打たれたかどうかについては意見が分かれています（第 17 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

5. サフワーン・ブン・アル＝ムアッタルはその後どうなったのですか。

かれは一人の女性の衣も開いたことがないと誓い、アーイシャは、かれがその後アッラーの道で殺されたと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。殉教の場所と年については、伝記の書の間で意見が分かれています。

6. 「善い女は善い男に」（24:26）とはどういう意味ですか。

イブン・カスィールはイブン・アッバースから、悪い言葉は悪い人にふさわしく、善い言葉は善い人にふさわしいという解釈を引いています。この節はまた、アッラーが、最も善い人であるアッラーの使徒 ﷺ の妻に、善い女性以外の者を置かれることはないことを示しています（イブン・カスィール注釈 24:26）。

7. リアーンの節（24:6–9）はイフク事件のために下ったのですか。

いいえ。リアーンの節は、自分の妻を告発した夫について下ったもので、ヒラール・ブン・ウマイヤの話（『サヒーフ・ブハーリー』4747）とウワイミル・アル＝アジュラーニーの話に関わります。イフクの節は 24:11–26 です。

8. なぜミスタフやハッサーンのような善良な教友までが影響されたのですか。

教友たちも過ちを犯すことのある人間でした。かれらは罰を受け、悔い改め、その過ちがかれらの美徳を消し去ることはありませんでした。預言者 ﷺ は、罪を犯して現世で罰を受けた者には、その罰が償いになると仰せられました（『サヒーフ・ブハーリー』18）。

9. 今日アーイシャを告発する者について、アフル・アッ＝スンナの立場は何ですか。

イブン・カスィールは、これらの節が下った後にアーイシャをその告発で非難する者は、クルアーンに背くことになるため不信仰者であると学者たちが一致していると述べています（イブン・カスィール注釈 24:23）。これは啓示を否定することにつ

いての学問的な立場です。他の人々に対する私たちの態度は、あくまで呼びかけと英知と作法によるものです。

10. この告発の禁止はアーイシャだけに限られるのですか。

いいえ。24:23 の節は、名誉を守っているすべての信者の女性に対する一般的なものであり、かの女たちを告発することは人を滅ぼす七つの罪の一つです（『サヒーフ・ブハーリー』2766）。イブン・カスィールは、アーイシャは節が下った原因であり、その規定は同じようなすべての人に及ぶと述べています。

11. 関わった教友たちについて、私たちはどのような作法で語るべきですか。

敬意をもって語ります。ミスタフはバドルの戦士、ハッサーンはアッラーの使徒 ﷺ を擁護した詩人、ハムナは信者たちの母の姉妹です。アーイシャ自身が、人々がハッサーンをののしることを禁じました（第 19 章）。私たちはかれらの過ちを、かれらをおとしめるためではなく、教訓として語るのです。

12. 私たち自身が中傷されたら、どうすべきですか。

アーイシャのように「美しい忍耐」で耐えること（第 13 章）、中傷に中傷で返さないこと、必要なら落ち着いて真実を説明すること、そして弁護をアッラーに委ねることです。アッラーは仰せられます。「それをあなたがたにとって悪いことだと思ってはならない。いや、それはあなたがたにとって善いことなのである」（光章 24:11）。

教訓

イフク事件は多くの問いを生みますが、その答えはクルアーン、真正なハディース、そして学者たちの説明に帰ります。聖典の明文と学者たちの見解を区別することで、私たちはこの出来事を、落ち着いて、公正に、そしてアッラーの使徒 ﷺ の家族と教友たちに対する作法をもって理解することができるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

イフク事件は、アッラーの使徒 ﷺ の生涯の中で最も個人的な試練でした — 使徒の**家庭**に触れる試練だったのです。しかしそこから、審判の日までウンマの名誉を守る節々が生まれました。

教訓	イフク事件から
勝利の中の慈悲	ジュワイリーヤと百の家族の解放
アサビーヤを退ける	「それをやめなさい、それは腐っている」
アッラーは正しい者を弁護される	ザイド・ブン・アルカムとアーイシャの正しさが認められた
試練に向き合う作法	アーイシャは座って待ち、サフワーンは沈黙した
良い推測と証拠	光章 24:12–13
舌を慎む	光章 24:15–16；ブハーリー 6478
美しい忍耐	「ファサブルン・ジャミール」（12:18）
赦すこと	アブー・バクルとミスタフ（24:22）
困難が善をもたらす	「いや、それはあなたがたにとって善いことなのである」（24:11）

私たちの生活の中のイフク

私たちは毎日、他人についての知らせを受け取っています — コーヒーショップで、礼拝所で、携帯電話で。この物語は私たちに、良く推測した**アブー・アイユーブ**、競争相手に対してさえ舌を慎んだ**ザイナブ**、赦した**アブー・バクル**、そしてアッラーに頼りながら耐え忍んだ**アーイシャ**のようになることを教えています — **知らせを舌で受け取る**人々のようにではなく。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イン・シャー・アッラー、『**預言者伝**』シリーズは**第 15 巻 —** アッラーの使徒 ﷺ の呼びかけの旅の、続く出来事 **—** へと続きます。ワッラーフ・アアラム（アッラーが最もよくご存じです）。

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『クルアーン大注釈（タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム）』（食卓章 5:6；ユースフ章 12:18；光章 24:4–26；部屋章 49:6；偽信者章 63:1–8）。https://tafsir.app/ibn-katheer/24/11

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』334、2541、3768、3770、4141、4143、4144、4145、4146、4753、4900、4905、6478、7370。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』序論 5；1730、2140、2447、2770、2772、2988。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3315；『スナン・アビー・ダーウード』3931、4474。https://sunnah.com

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— ムスタリク族とイフクの章。

イブン・サアド『タバカート』；アル＝ワーキディー『マガーズィー』。

サフィユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』— ムスタリク族の章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー：サヒーフ・ブハーリー注釈』— イフクのハディース（第 4141 番）。

科学

Vosoughi, S., Roy, D. & Aral, S. (2018). The spread of true and false news online. Science, 359(6380), 1146–1151. https://doi.org/10.1126/science.aap9559

Wikipedia「Invasion of Banu Mustaliq」。https://en.wikipedia.org/wiki/Invasion_of_Banu_Mustaliq

Wikipedia「Aisha」。https://en.wikipedia.org/wiki/Aisha

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4750；『サヒーフ・ムスリム』2770（イフクのハディースの別の伝承）。https://sunnah.com/bukhari:4750

『サヒーフ・ブハーリー』2766（人を滅ぼす七つの罪）。https://sunnah.com/bukhari:2766

『サヒーフ・ブハーリー』6241（視線のために許しを求めること）。https://sunnah.com/bukhari:6241

『サヒーフ・ブハーリー』6245（三度許しを求めること）。https://sunnah.com/bukhari:6245

『サヒーフ・ブハーリー』3772、3775（アーイシャの美徳）。https://sunnah.com/bukhari:3775

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3883（教友たちはアーイシャに尋ねた）。https://sunnah.com/tirmidhi:3883

『サヒーフ・ブハーリー』4747（リアーンの節、ヒラール・ブン・ウマイヤの話）。https://sunnah.com/bukhari:4747

『サヒーフ・ブハーリー』18（現世の罰は償いとなる）。https://sunnah.com/bukhari:18

イブン・カスィール注釈、光章 24:23 と 24:26。https://tafsir.app/ibn-katheer/24/23

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

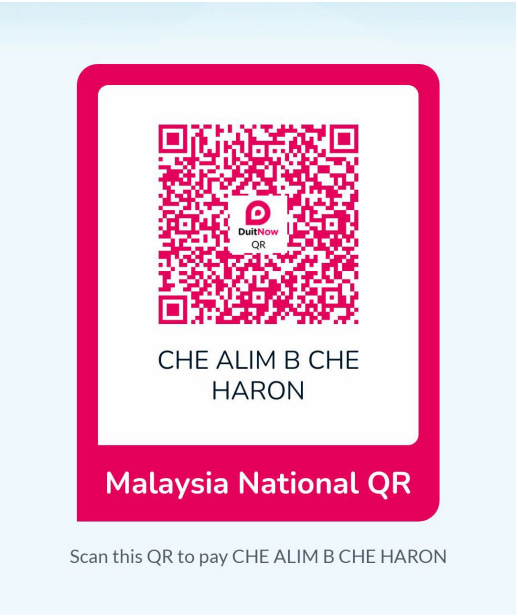
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience